



Cisco Email Reporting Plug-in 1.1 管理者 ガイド

2017 年 12 月 20 日

シスコシステムズ合同会社

〒 107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスココンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS 含む)

電話受付時間: 平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。**

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップ
デートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合があ
りますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サ
イトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊
社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されて
いる表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものと
します。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場
合には、代理店にご連絡ください。

シスコによる TCP ヘッダー圧縮の実装には、カリフォルニア大学バークレー校(UCB)が UNIX OS の DUB パブリック ドメイン版として
開発したプログラムを使用しています。All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」とし
て提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、ある
いは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものと
します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失や
データの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らさ
れていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco
trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use
of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内
の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレ
スおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Email Reporting Plug-in 1.1 管理者ガイド

© 2011—2017 Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.



CONTENTS

Cisco E Email Reporting Plug-in をご使用の前に	1-1
サポートされている構成	1-1
セキュリティ設定の準拠のガイドライン	1-2
このマニュアルの使い方	1-2
詳細情報の入手先	1-2
Cisco Content Security にコメントをお寄せください	1-4
Cisco Email Reporting Plug-in の展開	2-1
Cisco Email Reporting Plug-in	2-1
Cisco Email Reporting Plug-in のインストール	2-2
Cisco Email Reporting Plug-in の構成	2-2
Cisco Email Reporting Plug-in に必要なシステム プロセス	2-3
Cisco Email Reporting Plug-in に必要な TCP サービス	2-3
一括インストールの実行	3-1
インストールの前提条件	3-1
Cisco Email Reporting Plug-in 一括インストール ツール	3-2
一括インストールによって変更されるオプション	3-2
一括インストール ツールの実行	3-2
一括インストール パッケージとスクリプトの準備	3-3
インストールの実行	3-11
カスタム コンフィギュレーション ファイルの使用	3-27
概要	3-27

XML コンフィギュレーション ファイルの編集	3-29
カスタム コンフィギュレーション ファイルの展開	3-30
Cisco Email Reporting Plug-in の Outlook 用設定と使用	4-1
Cisco Email Reporting Plug-in の有効化	4-2
使用状況データ収集の設定	4-2
全般情報	4-3
アカウント固有の情報	4-3
Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook の全般設定	4-3
[有効(Enable)] または [無効(Disable)]	4-4
Outlook プラグインの基本設定	4-4
更新をチェックするための Outlook Plug-in の設定	4-6
更新の通知	4-6
コンフィギュレーション ファイルを使用した共通オプションの設定	4-7
不要な電子メールによるスパム、マーケティング、ウイルス、およびフィッシング攻撃の報告	4-9
レポート オプション	4-9
Reporting Plug-in for Outlook の使用方法	4-12
スパム レポートの暗号化の設定	4-15
スパム レポートのトラッキングの設定	4-15
追加設定の変更	4-15
[ロギング(Logging)] タブ	4-17
[使用データの送信(Sending Usage Data)] タブ	4-18
[プライバシー(Privacy)] タブ	4-18
エラーおよびトラブルシューティング	4-18
Outlook 起動エラー	4-19
メッセージ報告エラー	4-20
Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook ファイルの修復	4-21

診断ツールを使用したトラブルシューティング	4-21
Cisco Email Reporting 診断ツールにより収集される データ	4-22
Cisco Email Reporting 診断ツールの実行	4-22
Cisco Email Reporting Plug-in のアンインストール	4-24
シスコ エンド ユーザ ライセンス契約	A-1



CHAPTER 1

Cisco E Email Reporting Plug-in を ご使用の前に

この章は、次の項で構成されています。

- ・ [サポートされている構成\(1-1 ページ\)](#)
- ・ [セキュリティ設定の準拠のガイドライン\(1-2 ページ\)](#)
- ・ [このマニュアルの使い方\(1-2 ページ\)](#)

サポートされている構成

Cisco Email Reporting Plug-in 1.1 では、次の構成がサポートされます。

Cisco Email Reporting Plug-in 1.1	Outlook 2010 (32 ビット)	Outlook 2010 (64 ビット)	Outlook 2013 (32 ビット)	Outlook 2013 (64 ビット)	Outlook 2016 (32 ビット)	Outlook 2016 (64 ビット)
Windows 7 32 ビット	認定	—	互換	—	互換	—
Windows 7 64 ビット	互換	互換	互換	互換	互換	互換
Windows 8 32 ビット	互換	—	互換	—	互換	—
Windows 8 64 ビット	互換	互換	互換	互換	互換	互換
Windows 8.1 32 ビット	互換	—	互換	—	認定	—
Windows 8.1 64 ビット	認定	互換	互換	認定	互換	互換
Windows 10 32 ビット	互換	—	互換	—	互換	—
Windows 10 64 ビット	互換	互換	認定	認定	認定	互換

セキュリティ設定の準拠のガイドライン

Cisco Email Reporting Plug-in 1.1 がテストされ、以下の強化ガイドに記載されている設定および環境で作動することが確認されています。

- Microsoft Hardening Guides。Microsoft Security Compliance Manager 3.0.60 を使用して設定されます。ツールの入手先：
<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=16776>
- NSA Security Configuration Guides：
https://www.nsa.gov/ia/mitigation_guidance/security_configuration_guide/s/operating_systems.shtml#microsoft

このマニュアルの使い方

このガイドは、Cisco Email Reporting Plug-in の機能について知るためのリソースとしてご利用ください。トピックは、論理的な順序で編成されていますが、必ずしもすべての章を読む必要はありません。目次を読んで、ご使用の設定に関連する章を確認してください。

このマニュアルは PDF 形式で電子的に配布されています。このマニュアルの電子版は、Cisco Customer Support Portal で入手できます。また、アプリケーションの GUI で HTML オンライン ヘルプ ツールにアクセスできます。

- Outlook 2010/2013/2016 ではリボンの [プラグインオプション (Plug-in Options)] ボタンをクリックするか、[ファイル (File)] > [オプション (Options)] > [アドインオプション (Add-in Options)] > [Cisco Email Reporting] の順に選択します。

詳細情報の入手先

シスコは、Cisco Email Reporting Plug-in についての理解を深めて頂くために次の資料を提供しています。

セキュリティ トレーニング サービスと認定

シスコ セキュリティ トレーニング サービスでは、シスコの製品とソリューションを使用するための比類のない指導とトレーニングを行っています。技術的なトレーニング コース用の的確なカリキュラムを通じて、このプログラムでは、さまざまな利用者向けの最新の知識とスキルが伝わります。

シスコ セキュリティ トレーニング サービスに連絡するには、次のいずれかの方法を使用してください。

トレーニング。登録、トレーニング全般、証明書、および認定試験に関するご質問の場合:

- http://www.cisco.com/web/learning/le31/email_sec/index.html
- stbu-trg@cisco.com

シスコ サポート コミュニティ

シスコ サポート コミュニティは、シスコのお客様、パートナー、および従業員のオンライン フォーラムです。電子メールおよび Web セキュリティに関する一般的な問題や、特定のシスコ製品に関する技術情報について話し合う場を提供します。このフォーラムにトピックを投稿して質問したり、他のシスコ ユーザと情報を共有したりできます。

シスコ サポート コミュニティには次の URL からアクセスできます。

<https://supportforums.cisco.com>

シスコ カスタマー サポート



(注)

利用可能なサポートのレベルは、お客様のサービス レベル契約によって異なります。Cisco カスタマー サポートのサービス レベル契約の詳細については、サポート ポータルをご覧ください。サポート レベルの詳細については、このページで確認してください。

サポートは、電話、電子メール、またはオンラインで依頼できます(24 時間年中無休)。次のいずれかの方法でシスコカスタマーサポートにお問い合わせください。

- Cisco サポート ポータル: <http://www.cisco.com/support>
- 電話サポート: 800-553-2447 (米国/カナダ国内) または [Worldwide Phone Numbers](#) から Cisco Technical Assistance Center (TAC) にお問い合わせください。
- 電子メール: tac@cisco.com

リセラーまたは他のサプライヤからサポートを購入した場合、製品に関するサポートについては、直接そのリセラーもしくはサプライヤにお問い合わせください。

Cisco Content Security にコメントをお寄せください

Cisco Content Security テクニカル マニュアル チームは、製品ドキュメントの向上に努めています。お客様からのご意見をお待ちしています。次の電子メール アドレス宛にお送りください。

contentsecuritydocs@cisco.com



CHAPTER 2

Cisco Email Reporting Plug-in の展開

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Email Reporting Plug-in \(2-1 ページ\)](#)
- [Cisco Email Reporting Plug-in のインストール \(2-2 ページ\)](#)
- [Cisco Email Reporting Plug-in の構成 \(2-2 ページ\)](#)
- [Cisco Email Reporting Plug-in に必要なシステム プロセス \(2-3 ページ\)](#)
- [Cisco Email Reporting Plug-in に必要な TCP サービス \(2-3 ページ\)](#)

Cisco Email Reporting Plug-in

Cisco Email Reporting Plug-in を使用すると、Outlook ユーザは、スパム、ウイルス、フィッシング、およびマーケティング メッセージなど、一方的に送りつけられる不要な電子メール メッセージについてシスコにフィードバックを送信できます。シスコでは、このフィードバックを使用してそのフィルタを更新し、不要なメッセージが受信トレイに配信されないようにします。

さらに、[スパムではありません (Not Spam)] ボタンを使用して、誤検出 (誤ってスパムとしてマークされた正当な電子メール メッセージ) をシスコに報告することもできます。正当な電子メール メッセージは「ハム」とも呼ばれます。シスコでは、誤検出に関するレポートを活用してスパム フィルタを調整し、今後、正当な電子メールが誤分類されないようにします。あらゆる正当な電子メールを「非スパム」として報告できるので、フィルタの効率向上に役立ちます。

このプラグインは、ツールバー ボタンと右クリック コンテキスト メニューを使用してフィードバックを送信できる便利なインターフェイスです。メッセージを報告すると、メッセージが送信されたことを示すダイアログボックスが表示されます。送信したメッセージ データは、シスコ フィルタを改善するために自動システムによって使用されます。メッセージ データを送信することで、受信トレイに届く未承諾電子メールの量を削減することができます。

Cisco Email Reporting Plug-in のインストール

ユーザ グループ向けに Cisco Email Reporting Plug-in をインストールする場合、サイレント インストールを実行できます。サイレント インストールでは、エンドユーザに入力を求めずにインストールを実行することができます。サイレント インストールの詳細については、[第 3 章「一括インストールの実行」](#)を参照してください。

Cisco Email Reporting Plug-in の構成

Cisco Email Reporting Plug-in をインストールすると、Outlook の [Cisco Email Reporting] タブから設定を変更できるようになります。

- Outlook 2010/2013/2016 ではリボンの [プラグインオプション (Plug-in Options)] ボタンをクリックするか、[ファイル (File)] > [オプション (Options)] > [アドイン (Add-ins)] > [アドインオプション (Add-in Options)] > [Cisco Email Reporting] の順に選択します。

Reporting plug-in のインストールは変更が可能です。たとえば、Cisco Email Reporting Plug-in のログインを有効または無効にできます。

Outlook で設定を変更する場合は、[第 4 章「Cisco Email Reporting Plug-in の Outlook 用設定と使用」](#)を参照してください。

Cisco Email Reporting Plug-in に必要なシステム プロセス

Cisco Email Reporting Plug-in で必要なものは、TCP/IP DNS や DHCP などの必須のシステム プロセスのみで、これらのものは無効にすることはできません。ただし、データベース マネージャ、HTTP サーバ、ハードウェア 設定デーモンなどの必須ではないシステム プロセスは、Cisco Email Reporting Plug-in の機能に影響を与えずに無効にすることができます。

Cisco Email Reporting Plug-in に必要な TCP サービス

Cisco Email Reporting Plug-in では、次の TCP/IP サービスと関連ポートを使用する必要があります。これらのポートは、TCP/IP サービスで使用できる状態のままにしておく必要があります。

- DNS(ドメイン ネーム システム)。

DNS サービスは、インターネット ドメイン名とホスト名を IP アドレスに変換します。DNS は、Web ブラウザのアドレス バーに入力された名前を、それらのサイトをホストしている Web サーバの IP アドレスに自動的に変換します。

ポート番号: 53(TCP/UDP)

詳細については、次のサイトを参照してください。

http://en.wikipedia.org/wiki/Domain_Name_System

影響: 大

処置: このサービスは、すべてのエンド ユーザに対してアクセス可能にする必要があります。

- SMTP(Simple Mail Transfer Protocol)

Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) は、インターネット プロトコル (IP) ネットワークを介して電子メール(E メール)を伝送するためのインターネット標準です。

ポート番号: 25、587、465、475、2525(TCP)

詳細については、次のサイトを参照してください。

http://en.wikipedia.org/wiki/Simple_Mail_Transfer_Protocol

影響: 大

処置: このサービスは、すべてのエンド ユーザに対してアクセス可能にする必要があります。

- ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP)

DHCP は、ネットワーク (ホスト) に接続するデバイスの設定に使用されるネットワーク プロトコルです。これによって、デバイスはインターネット プロトコル (IP) を使用してネットワーク上で通信できるようになります。

ポート番号: 67、68 (TCP/UDP)

詳細については、次のサイトを参照してください。

http://en.wikipedia.org/wiki/Dynamic_Host_Configuration_Protocol

影響: 大

処置: このサービスは、DHCP サーバから IP アドレスを自動取得するエンド ユーザ全員に対してアクセス可能にする必要があります。

- Net BIOS over TCP/IP

NetBIOS over TCP/IP (NBT または NetBT) は、NetBIOS API を利用しているレガシー コンピュータ アプリケーションで最新の TCP/IP ネットワークを使用できるようにするネットワーク プロトコルです。

ポート番号: 137 (UDP) (ネーム サービス)、138 (UDP) (データグラム サービス)、139 (TCP) (セッション サービス)

詳細については、次のサイトを参照してください。

http://en.wikipedia.org/wiki/NetBIOS_over_TCP/IP

影響: 大

処置: このサービスは、すべてのエンド ユーザに対してアクセス可能にする必要があります。

- HTTP (Hypertext Transfer Protocol)

Hypertext Transfer Protocol (HTTP) は、コラボレーション ハイパーメディア分散情報システム用のアプリケーション プロトコルです。

ポート番号: 80、8080 (TCP)

詳細については、次のサイトを参照してください。

http://en.wikipedia.org/wiki/Hypertext_Transfer_Protocol

影響: 大

処置: このサービスは、すべてのエンド ユーザに対してアクセス可能にする必要があります。

- HTTPS (Hypertext Transfer Protocol Secure)

HTTPS は、コンピュータ ネットワーク上で安全に通信するための通信プロトコルであり、特にインターネット全体にわたって展開されています。

ポート番号: 443 (TCP)

詳細については、以下を参照してください。

http://en.wikipedia.org/wiki/HTTP_Secure

影響: 大

処置: このサービスは、すべてのエンド ユーザに対してアクセス可能にする必要があります。

- IMAP (Internet Message Access Protocol)

Internet Message Access Protocol によって、電子メール クライアントはリモート メール サーバ上の電子メールにアクセスできます。

ポート番号: 143、993 (TCP)

詳細については、次のサイトを参照してください。

http://en.wikipedia.org/wiki/Internet_Message_Access_Protocol

影響: 大

処置: このサービスは、すべてのエンド ユーザに対してアクセス可能にする必要があります。

- POP3 (Post Office Protocol)

Post Office Protocol は、TCP/IP 接続を介してリモート サーバから電子メールを取得するために、電子メール クライアントによって使用されます。

ポート番号: 110、995 (TCP)

詳細については、次のサイトを参照してください。

http://en.wikipedia.org/wiki/Post_Office_Protocol

影響: 大

処置: このサービスは、すべてのエンド ユーザに対してアクセス可能にする必要があります。



CHAPTER 3

一括インストールの実行

この章では、複数のデスクトップに一括インストールする方法について説明します。ここで説明する内容は次のとおりです。

- [インストールの前提条件 \(3-1 ページ\)](#)
- [Cisco Email Reporting Plug-in 一括インストール ツール \(3-2 ページ\)](#)
- [インストールの実行 \(3-11 ページ\)](#)
- [カスタム コンフィギュレーション ファイルの使用 \(3-27 ページ\)](#)

インストールの前提条件

Cisco Email Reporting Plug-in アプリケーションをインストールする前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- Microsoft .NET Framework 4.6.1 以降
- Microsoft Office Primary Interop Assemblies

これらの項目がインストールされていない場合は、前提条件のリストに含まれるすべてのソフトウェアをインストールすることを求めるプロンプトがプラグインのインストーラに表示されます。

Cisco Email Reporting Plug-in 一括インストール ツール

Cisco Email Reporting Plug-in の一括インストールを使うと、組織内のユーザが使用できるよう Cisco Email Reporting Plug-in の配布パッケージを作成できます。

配布パッケージを保存するサーバは、サーバ接続の手順でローカルマシンとリモートマシンのいずれかを選択できます。

また、一般オプションとアカウントオプションを編集してデフォルト設定を変更できます。インストールのさまざまな側面を変更するさまざまなコンフィギュレーションファイルを使用することもできます。たとえば、さまざまなパラメータ値をカスタマイズして、デフォルトのオプションを部分的に変更できます。また、特定のドメインのユーザのみを対象に構成を事前設定し、ユーザインターフェイスをローカライズしたり、ボタンの名前をカスタマイズしたりできます。

カスタマイズして準備の整った `CommonComponentsConfig.xml` や `config_{n}.xml` ファイルをアップロードできます。

最後のステップでは、一括インストールの実行に必要なすべてのファイルが格納されている共有フォルダのパスと、カスタマイズされたスクリプトを取得します。このスクリプトは、コピーして SCCM 管理ツールで再利用します。

一括インストールによって変更されるオプション

Cisco Email Reporting Plug-In の一括インストールを実行すると、インストールプロセスで使用される次のオプションが変更されます。

- 言語、ロギング、Cisco へのデータ送信、更新チェックなどの一般的なオプション。
- アカウントオプション(指定ドメインのユーザ用に事前定義された構成)。

一括インストール ツールの実行

[スタート(Start)] メニューまたは [Program Files] フォルダのいずれかから Cisco Email Reporting Plug-In 一括インストールを実行します。

[スタート (Start)] メニューから実行する場合：

- [スタート (Start)] メニュー ボタンをクリックし、[Cisco Email Reporting Plug-in] > [Cisco Email Reporting Plug-in の一括インストール (Cisco Email Reporting Plug-in Mass Installation)] に移動します。

または

[Program Files] フォルダから実行する場合：

- Cisco Email Reporting Plug-in がインストールされているフォルダ (通常は **C:\Program Files (x86)\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-in**) に移動し、*Cisco.EmailReporting.MassInstall.exe* ファイルをダブルクリックします。

一括インストールパッケージとスクリプトの準備

手順は次のとおりです。

ステップ 1 一括インストールツールを実行します。

ステップ 2 [ようこそ (Welcome)] ウィンドウで、[次へ (Next)] をクリックします。



- ステップ 3 [サーバ接続 (Server Connectivity)] ウィンドウで、使用する接続を選択します。ローカル マシンまたはリモート マシンを使用できます。リモート マシンを選択した場合は、[マシン名または IP アドレス、ユーザ名 (Machine name or IP address, Username)] フィールドと [パスワード (Password)] フィールドに入力して [次へ (Next)] をクリックします。

The screenshot shows a window titled "Cisco Email Reporting Plug-In Mass Installation". The main heading is "Server Connectivity". Below it, a subtitle reads: "Choose preferable connectivity settings to be used when installing Cisco Email Reporting Plug-In".

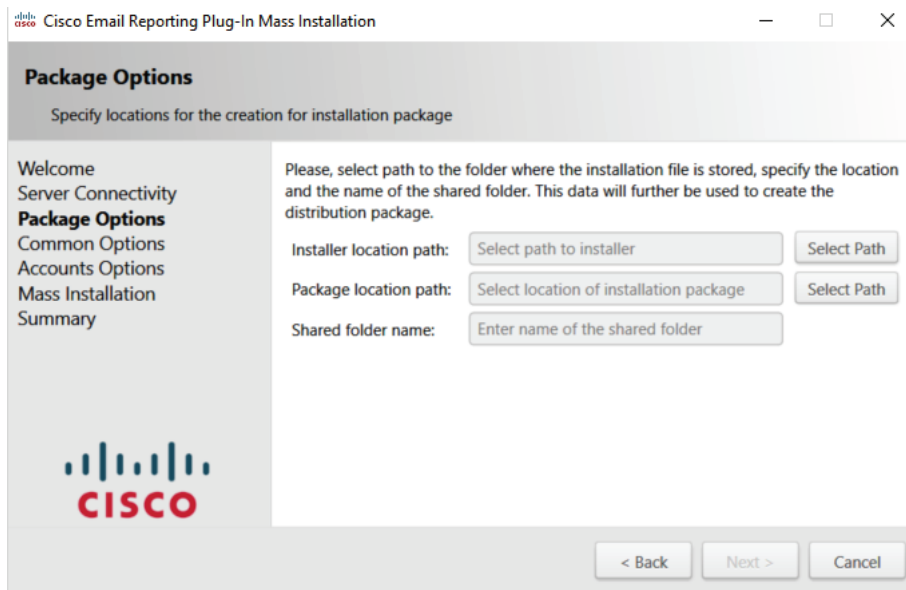
On the left, there is a sidebar with the following options: "Welcome", "Server Connectivity" (which is highlighted), "Package Options", "Common Options", "Accounts Options", "Mass Installation", and "Summary". At the bottom of this sidebar is the Cisco logo.

The main content area contains the following text: "Distribution package containing the installer is created on the local machine. If 'Use remote machine' option is selected, the distribution package will be created on the remote server. User is therefore asked to provide the name or IP address of the remote machine to connect to as well as the authentication credentials."

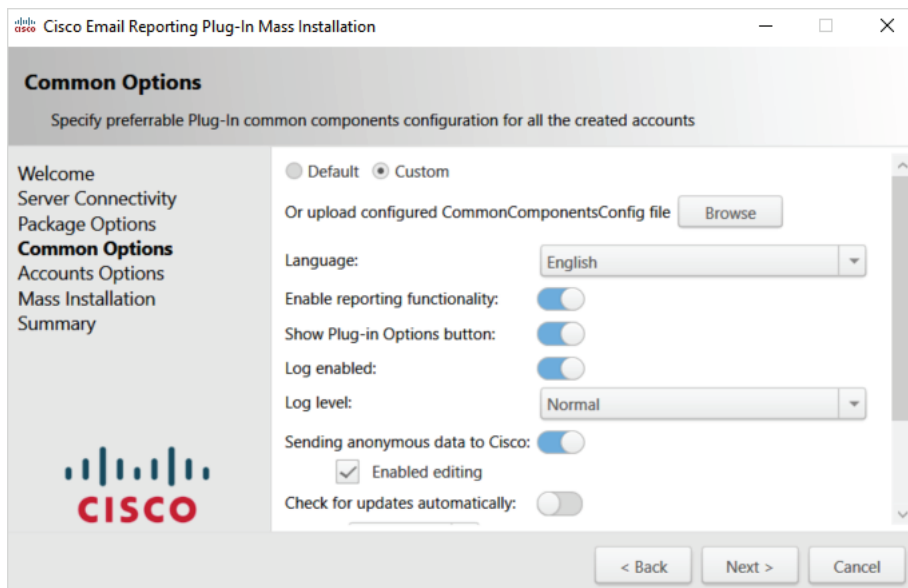
Below this text is a checkbox labeled "Use remote machine" which is checked. Underneath are three input fields: "Machine name or IP address:" (with a placeholder "Enter IP address or machine name"), "Username:" (with a placeholder "Enter username, e.g. domain\username"), and "Password:" (with a placeholder "Enter password"). To the right of these fields are "Cancel" and "Connect" buttons.

At the bottom left of the main content area, there is a status indicator: "Offline" with a red dot. At the bottom right of the window, there are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

ステップ 4 [パッケージオプション (Package Options)] ウィンドウでインストールパッケージの作成先を指定して [次へ (Next)] をクリックします。



- ステップ 5 [一般的なオプション(Common Options)] ウィンドウで、すべてのアカウントに適用するプラグイン共有設定を指定して [次へ(Next)] をクリックします。



- ステップ6 [アカウントオプション(Account Options)] ウィンドウで、指定したドメインに適用するプラグイン オプションを設定して [次へ(Next)] をクリックします。

The screenshot shows the 'Accounts Options' window for the Cisco Email Reporting Plug-In Mass Installation. The window title is 'Cisco Email Reporting Plug-In Mass Installation'. The main heading is 'Accounts Options' with the subtitle 'Set plug-in options to be applied for the specified domains'. On the left, a sidebar lists navigation options: 'Welcome', 'Server Connectivity', 'Package Options', 'Common Options', 'Accounts Options' (highlighted), 'Mass Installation', and 'Summary'. Below the sidebar is the Cisco logo. The main area contains two rows of configuration fields. The first row has a text box with 'domain1.com' and a dropdown menu set to 'Encrypted'. The second row has a text box with 'domain2.com' and a dropdown menu also set to 'Encrypted'. To the right of each row are icons for editing (pencil), saving (floppy disk), and deleting (X). At the bottom right of the main area is an 'Add Config' button. At the very bottom of the window are three buttons: '< Back', 'Next >', and 'Cancel'.

ステップ7 [アカウントオプション(Account Options)] ウィンドウで [編集(Edit)] アイコンをクリックしてプラグインオプションを設定します。[保存(Save)] をクリックし、次に [次へ(Next)] をクリックします。

The screenshot shows the 'Accounts Options' window for the Cisco Email Reporting Plug-In Mass Installation. The 'General' sub-tab is selected. The left sidebar contains a list of options: Welcome, Server Connectivity, Package Options, Common Options, **Accounts Options**, Mass Installation, and Summary. The main area contains the following fields and controls:

- Domain: domain1.com
- Reports format (.enc or .raw): Encrypted
- Subject: Cisco Email Reporting Plug-in Report \${re}
- Max mail size: 1005000
- Attachment name: orig_mas.enc
- Keep sent reports: ☐
- Single email reported message: ☒
- Multiple emails reported message: ☒

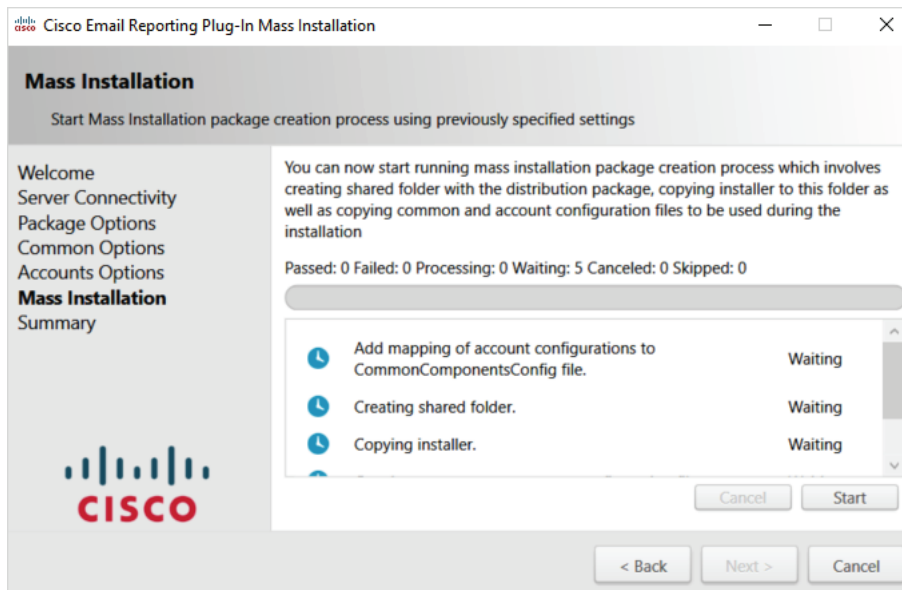
At the bottom, there are buttons for '< Back', 'Next >', 'Cancel', 'Save', and 'Cancel'.

The screenshot shows the 'Accounts Options' window for the Cisco Email Reporting Plug-In Mass Installation, with the 'Reporting' sub-tab selected. The left sidebar is the same as the previous screenshot. The main area contains the following fields and controls:

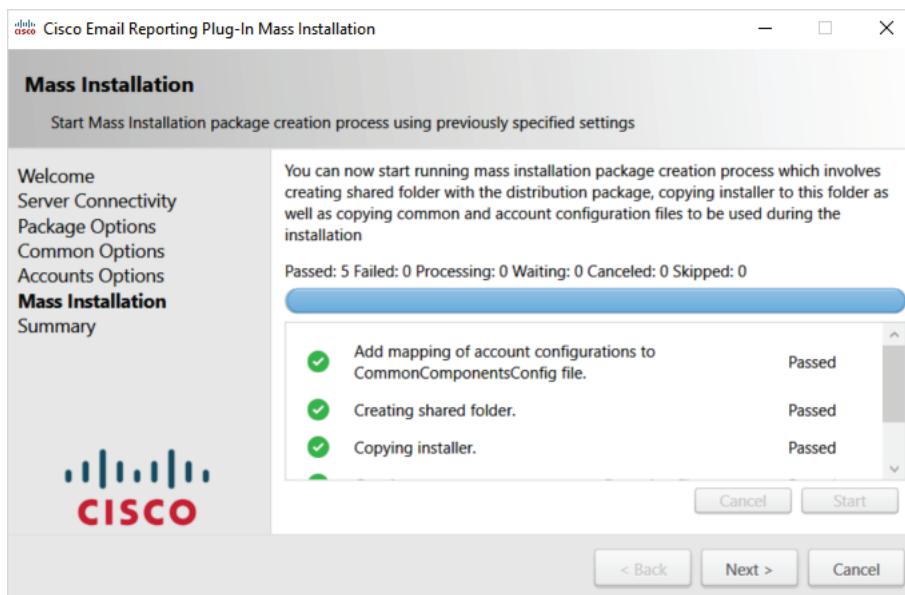
- Spam**
- Address: outlook_spam@access.ironport.com
- Address Plain Format: Specify email address
- Address Original Format: Specify email address
- Show in Deleted folder: ☐
- Show in Junk folder: ☒
- Large Ribbon Button: ☒

At the bottom, there are buttons for '< Back', 'Next >', 'Cancel', 'Save', and 'Cancel'.

- ステップ 8 [一括インストール(Mass Installation)] ウィンドウで [開始(Start)] をクリックし、一括インストールのプロセスを開始します。



ステップ 9 一括インストールの処理が完了するまで待ち、[次へ (Next)] をクリックします。

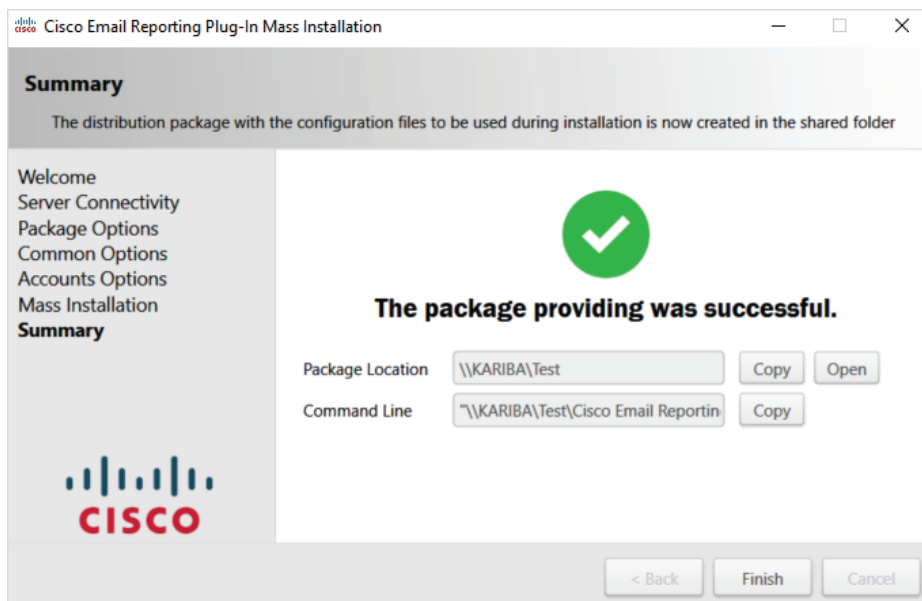


ステップ 10 [概要 (Summary)] ウィンドウで、パッケージの格納場所へのパスと一括インストール スクリプトを取得できます。

配布パッケージとインストール時に使用するコンフィギュレーション ファイルが共有のフォルダに作成されました。パスをこのフォルダにコピーするか、[開く (Open)] をクリックしてフォルダの内容を表示できます。

指定されたコマンドをコマンド ラインで実行すると、SCCM 管理ツールで事前定義済みの設定を使用して Cisco Email Reporting Plug-in を組織内のリモート マシンにインストールできます。SCCM 管理ツールの操作方法については、[Cisco Email Reporting Plug-in 一括インストール ツール \(3-2 ページ\)](#)をご覧ください。

SCCM ツールで再利用できるようにこのスクリプトをコピーしたら、[終了 (Finish)] をクリックします。



インストールの実行

インストールを実行するには、次の手順に従って、ネットワーク共有フォルダと配布パッケージを作成し、New Package Wizard と New Program Wizard を完了させます。

インストールを実行する手順：

ステップ 1 インストール パッケージをダウンロードし、チェックサムを確認します。

- a. 次の URL で Quick Hash GUI と SHA512 ハッシュ アルゴリズムを使用して、インストール パッケージ用のチェックサムを生成します。

<http://sourceforge.net/projects/quickhash/>

- b. 生成されたチェックサムが次に一致することを確認します。

5D51202137F0744AEE247A35C815AB0006386E91AFDC1DE4FC7439
A46D086F8BA5CF7FB32ED1C092ADE40A74F7CA93819662F864C9E
5364D072198E03AF0480D

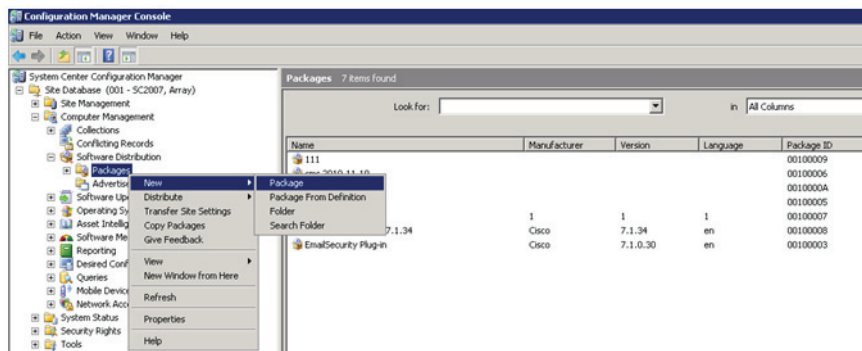
- ステップ 2 インストール パッケージを含むネットワーク共有フォルダを作成し、ユーザに対して共有フォルダへのアクセス権限を付与します。



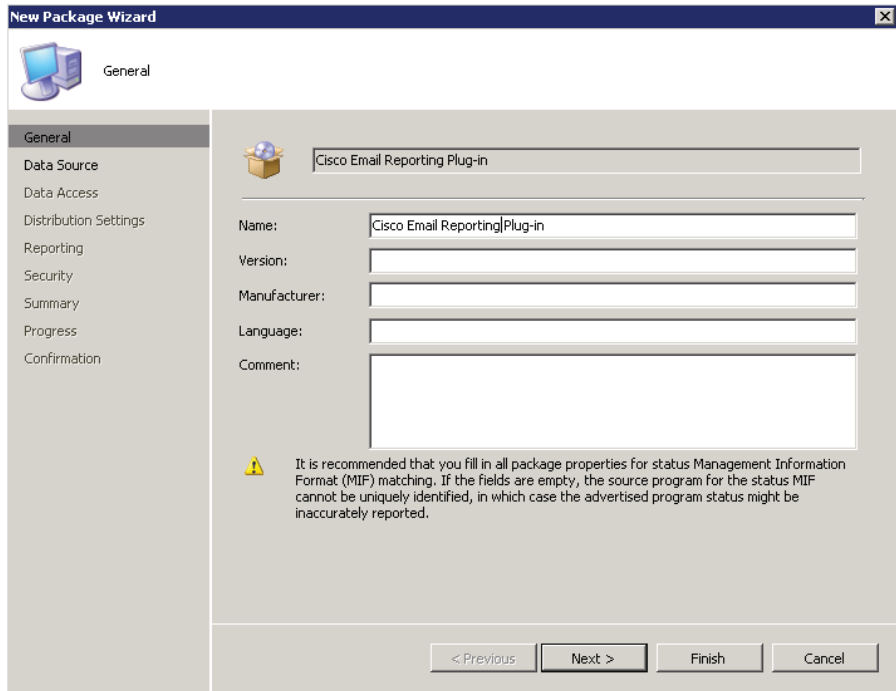
(注) dropbox、ネットワークドライブ、または共有システム フォルダからインストールを実行することはできません。

- ステップ 3 SCCM 管理ツールを開きます。

- ステップ 4 新しいソフトウェア配布パッケージを作成します。



ステップ5 パッケージの名前を入力し、[次へ(Next)] をクリックします。



The screenshot shows the 'New Package Wizard' dialog box with the 'General' tab selected. The left sidebar lists the following steps: General, Data Source, Data Access, Distribution Settings, Reporting, Security, Summary, Progress, and Confirmation. The main area contains a package icon (a box with a globe) and a text field with the value 'Cisco Email Reporting Plug-in'. Below this are input fields for 'Name:', 'Version:', 'Manufacturer:', 'Language:', and a larger 'Comment:' text area. The 'Name:' field contains 'Cisco Email Reporting|Plug-in'. At the bottom, there is a warning icon and a message: 'It is recommended that you fill in all package properties for status Management Information Format (MIF) matching. If the fields are empty, the source program for the status MIF cannot be uniquely identified, in which case the advertised program status might be inaccurately reported.' Navigation buttons at the bottom include '< Previous', 'Next >', 'Finish', and 'Cancel'.

New Package Wizard

General

General

Data Source

Data Access

Distribution Settings

Reporting

Security

Summary

Progress

Confirmation

Cisco Email Reporting Plug-in

Name: Cisco Email Reporting|Plug-in

Version:

Manufacturer:

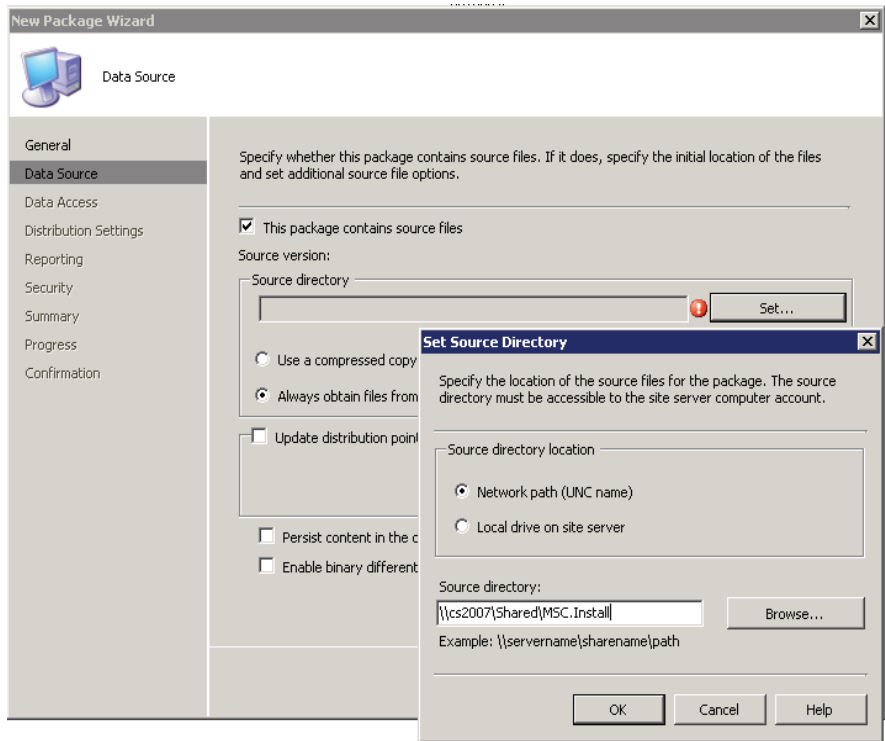
Language:

Comment:

It is recommended that you fill in all package properties for status Management Information Format (MIF) matching. If the fields are empty, the source program for the status MIF cannot be uniquely identified, in which case the advertised program status might be inaccurately reported.

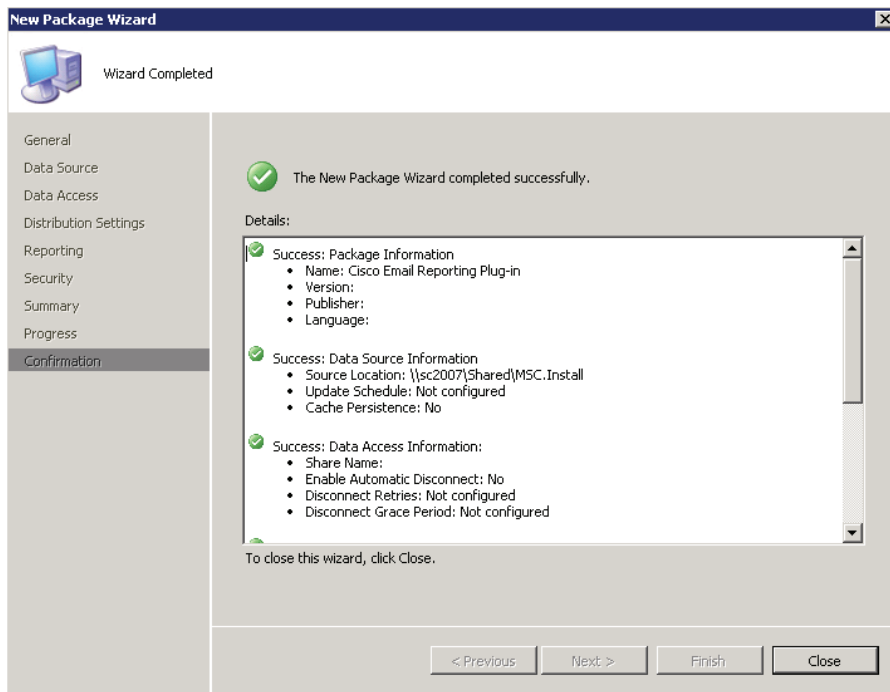
< Previous Next > Finish Cancel

- ステップ 6** ネットワークの共有フォルダにある .exe ファイルへのパス (\\sc2007\Shared\MSC.Install\Cisco Email Reporting Plug-in.exe) を入力し、**ステップ 2** で作成したネットワークのソース ディレクトリを指定します。フォルダへのパスを入力するか、フォルダを参照します。[次へ(Next)] をクリックします。

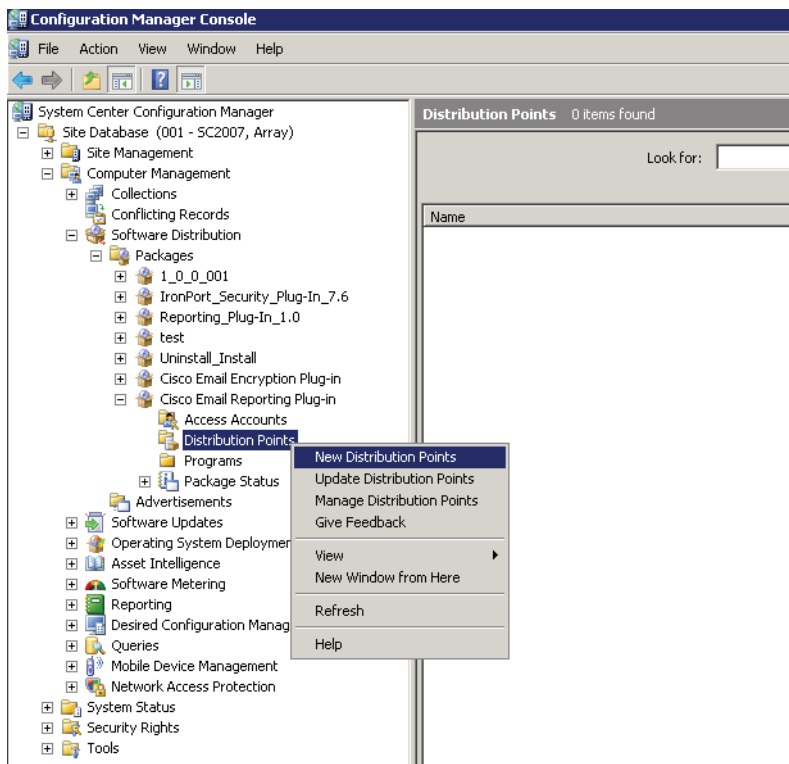


- ステップ 7** [新規パッケージウィザード (New Package Wizard)] で次のステップに進み、[次へ(Next)] をクリックします。

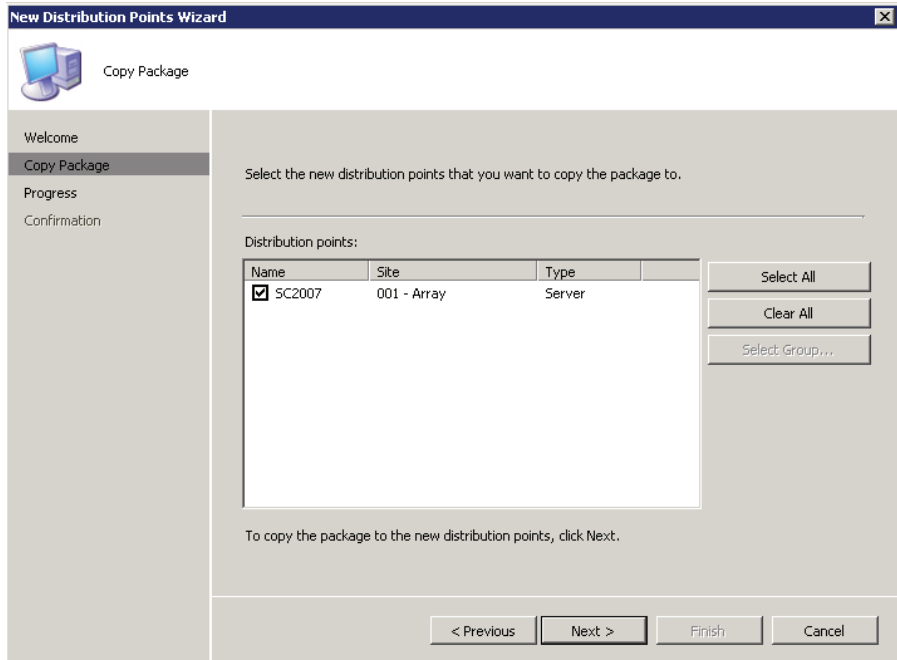
ステップ 8 [新規パッケージウィザード (New Package Wizard)] が正常に完了したことを確認して、[閉じる (Close)] をクリックします。



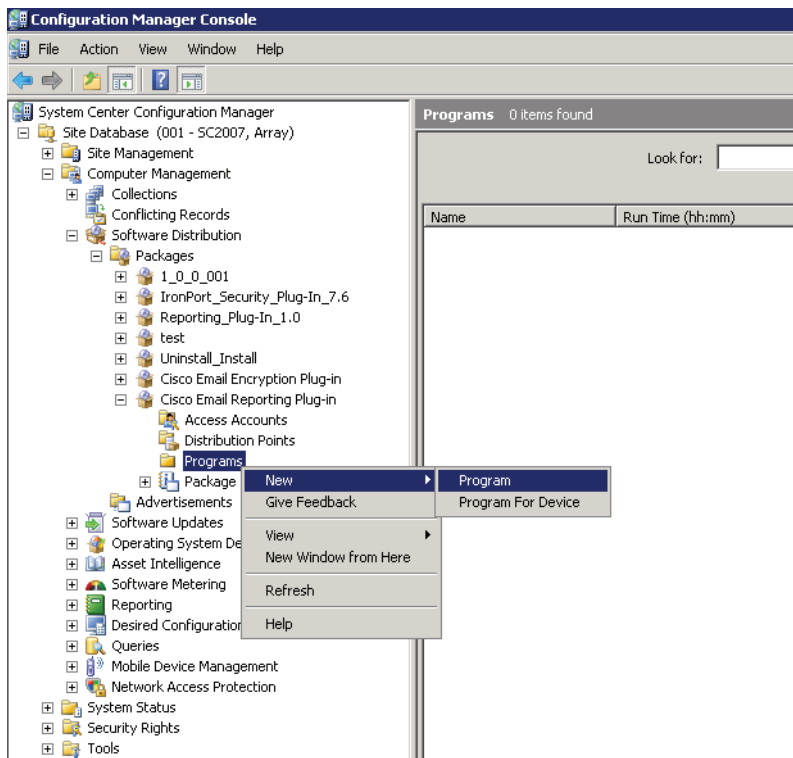
ステップ 9 新しい分散ポイントを作成し、[ようこそ (Welcome)] ページの [次へ (Next)] をクリックします。



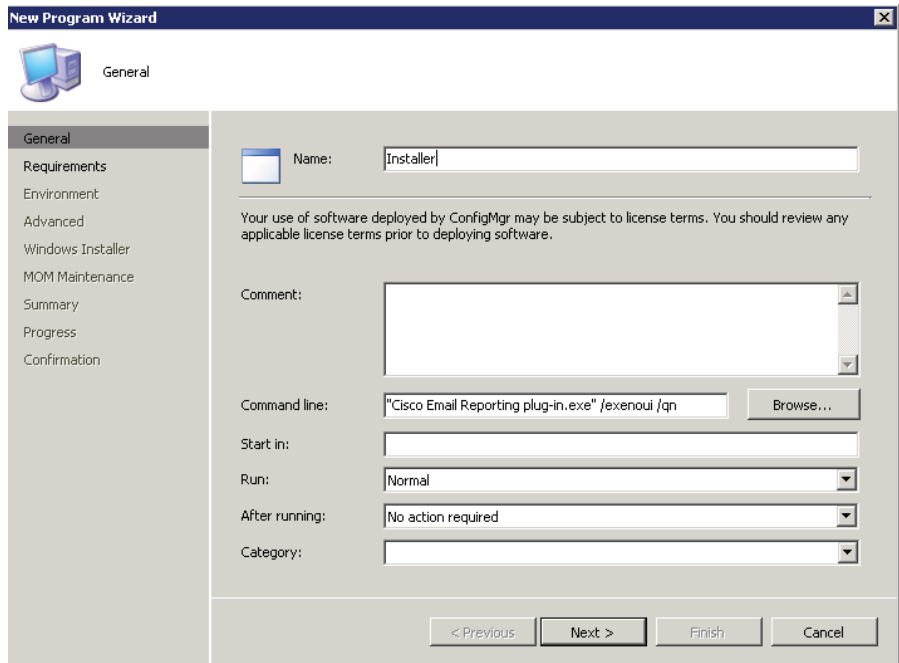
- ステップ 10** 新しい分散ポイントを選択します。[新規配布ポイントウィザード (New Distribution Points Wizard)] で以降のページをクリックして、[閉じる (Close)] をクリックします。



ステップ 11 新しいプログラムを作成します。



ステップ 12 コマンド ライン フィールドに、次のコマンドを入力します: “Cisco Email Reporting Plug-in.exe” /exenoui /qn



(注)

カスタマイズしたコンフィグレーション ファイルを使用する場合は、このステップで特殊キーを追加して、インストールでカスタム ファイルを使用できるようにする必要があります。次の構文を使用して、コマンドラインから特殊キーを追加します(= 記号の後にカスタム コンフィグレーション ファイルの場所を指定します)。

```
"Cisco Email Reporting Plug-in.exe" /exenoui /qn
UseCustomConfig="\\sc2007\Shared\config\"
```

コンフィギュレーション ファイルの詳細については、[カスタム コンフィギュレーション ファイルの使用 \(3-27 ページ\)](#) を参照してください。

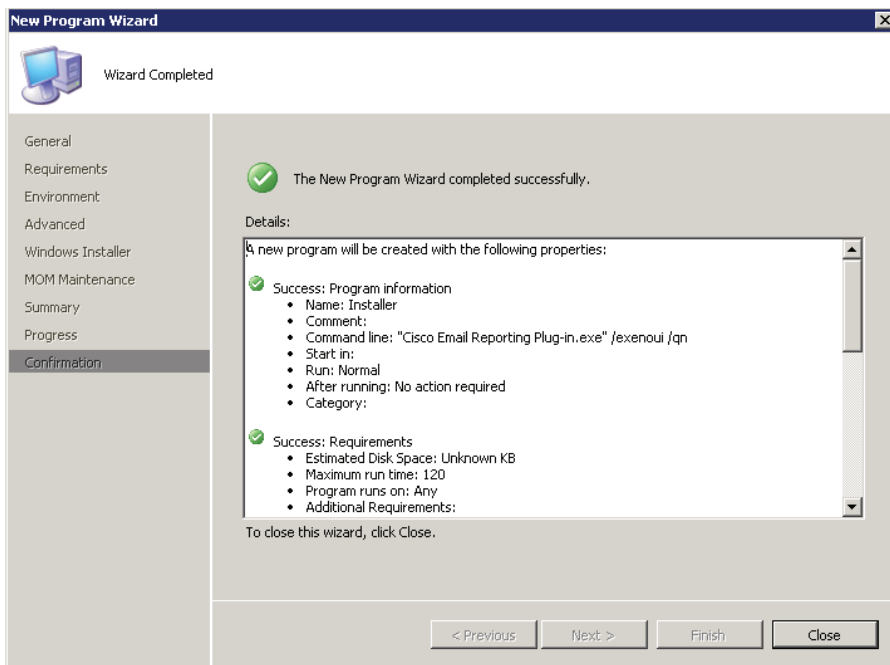
ステップ 13 [実行(Run)] フィールドで **Hidden** と入力し、[次へ(Next)] をクリックします。

ステップ 14 要件ページをクリックして、[次へ(Next)] をクリックします。

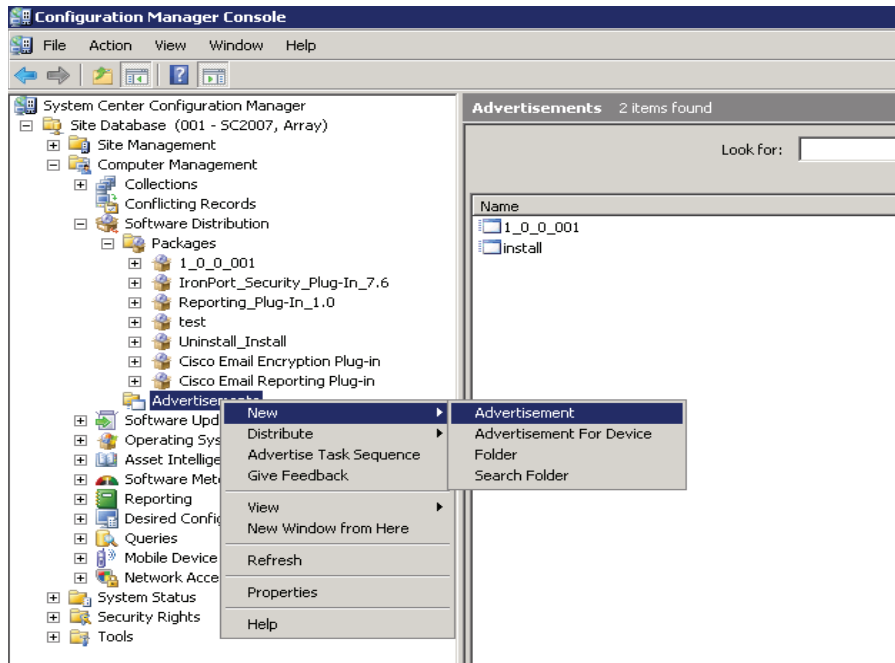
ステップ 15 次の環境オプションを選択します。

- [プログラムを実行可能 (Program can run)]: ユーザのログイン時に限ります。管理者権限に対して Run モードが設定されている場合は、[プログラムを実行可能 (Program can run)] を [ユーザのログイン時 (Whenever the user is logged on)] に設定できます。
- [実行モード (Run mode)]: ユーザの権限で実行するか、またはユーザが新しいソフトウェアのインストールに必要な権限を持っていない場合は管理権限で実行します。

ステップ 16 [新規プログラムウィザード (New Program Wizard)] が正常に完了したことを確認して、[閉じる (Close)] をクリックします。



ステップ 17 新しいアドバタイズメントを作成します。

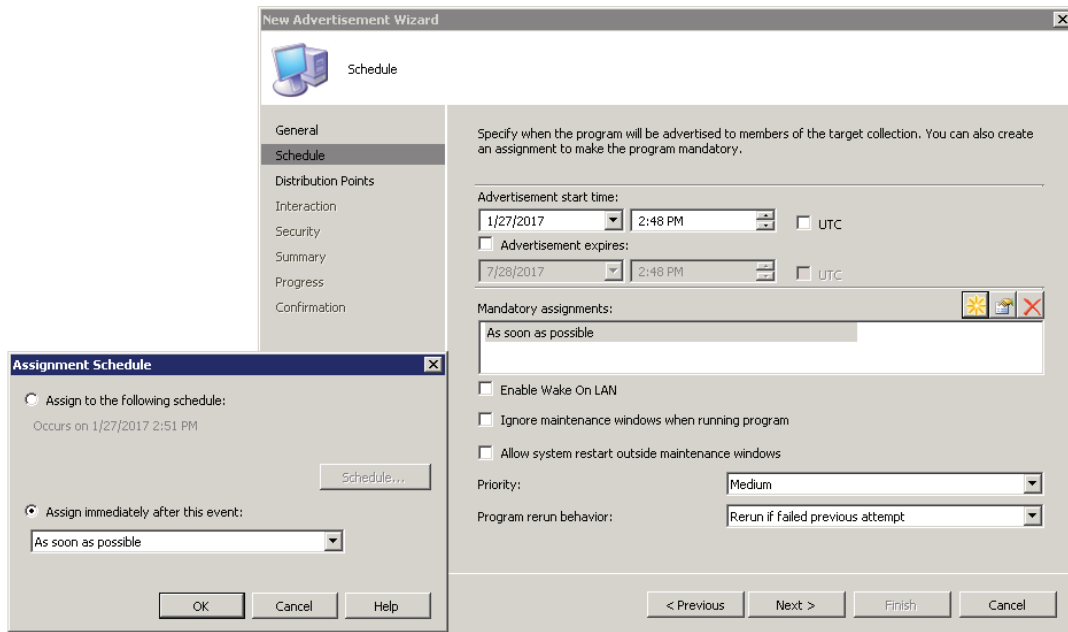


- ステップ 18** 名前を入力し、作成したパッケージとプログラムを選択します。プラグインをインストールするクライアントのグループが含まれるコレクションを選択して、[次へ(Next)] をクリックします。

The screenshot shows the 'New Advertisement Wizard' dialog box with the 'General' tab selected. The left sidebar lists the following steps: General, Schedule, Distribution Points, Interaction, Security, Summary, Progress, and Confirmation. The main area contains the following fields and controls:

- Name:** A text box containing 'Install Cisco Email Reporting Plug-in'.
- Comment:** A large text area for additional information.
- Package:** A text box containing 'Cisco Email Reporting Plug-in' with a 'Browse...' button to its right.
- Program:** A dropdown menu showing 'Installer'.
- Collection:** A text box containing 'ReportingPlug-In_1.0_VMs_P0' with a 'Browse...' button to its right.
- Include members of subcollections:** A checked checkbox.
- Navigation buttons:** '< Previous', 'Next >', 'Finish', and 'Cancel' buttons at the bottom.

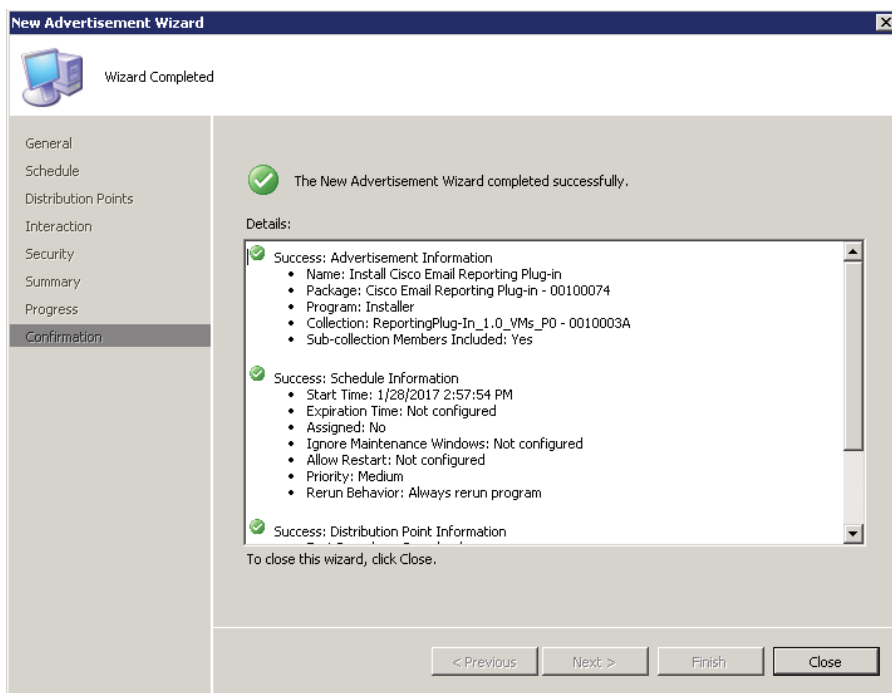
ステップ 19 割り当てを必須として設定します。[次へ(Next)] をクリックします。



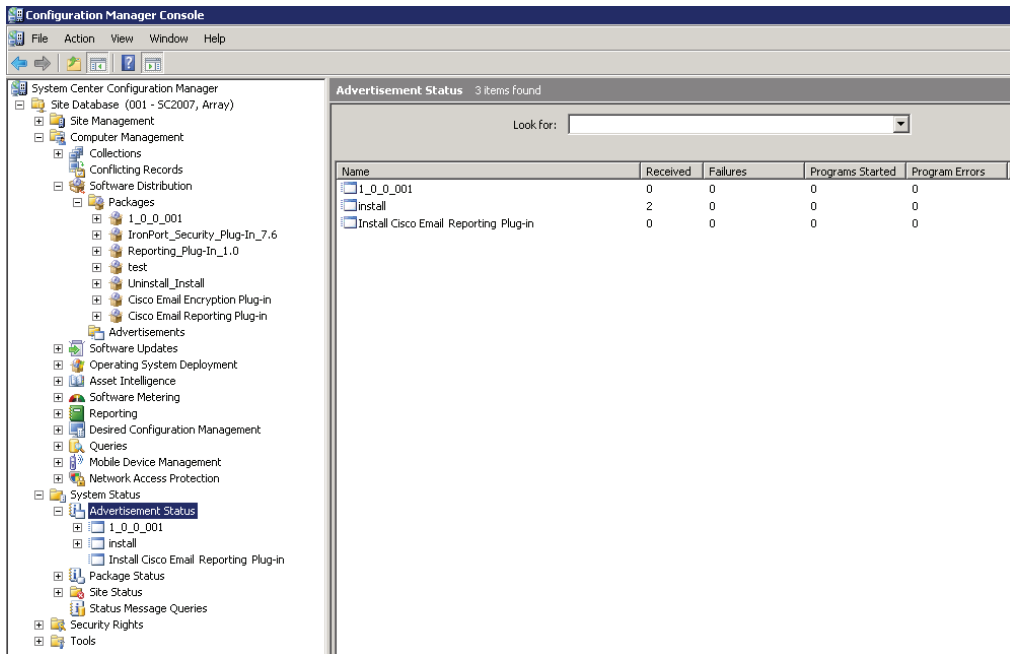
ステップ 20 設定に基づいてスイッチを選択します。少なくとも 1 つの必須割り当て (Mandatory assignment) を設定する必要があります。接続が遅いとプログラムが起動しなくなるため、[プログラムを実行しない (Do Not Run Program)] を選択しないでください。[次へ(Next)] をクリックします。

ステップ 21 [新規通知ウィザード (New Advertisement Wizard)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。

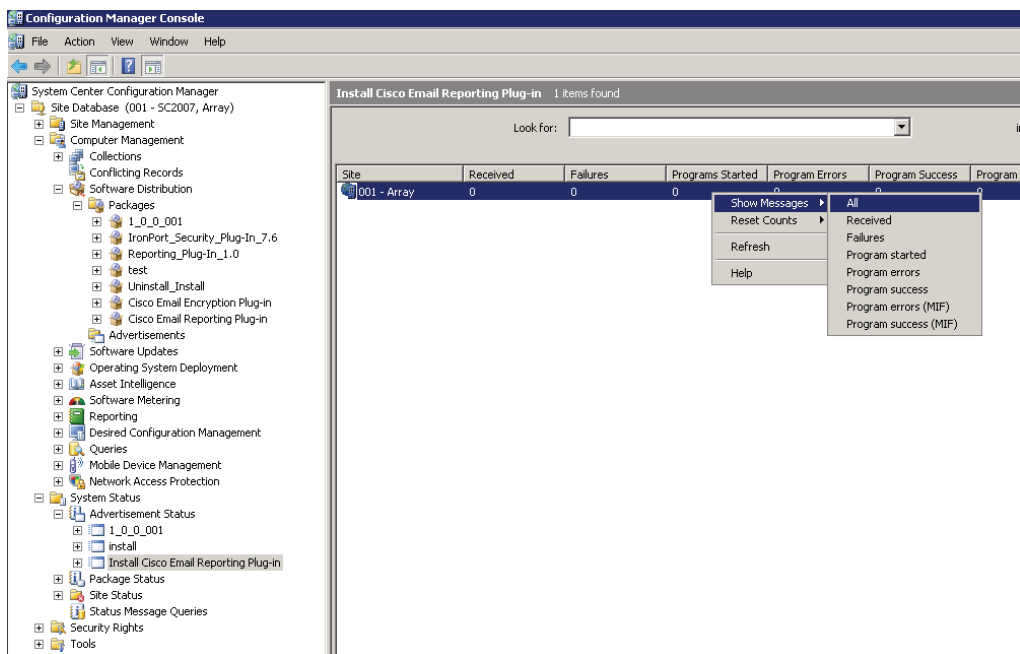
ステップ 22 [新規通知ウィザード (New Advertisement Wizard)] が正常に完了したこと確認してから、[閉じる (Close)] をクリックします。



ステップ 23 [通知ステータス (Advertisement Status)] ウィンドウで [通知ステータス (Advertisement Status)] を表示します。



ステップ 24 通知レポートを作成して詳細を表示するには、コンテキスト メニューで [メッセージの表示 (Show Message)] > [すべて (All)] を選択します。エラーが発生した場合は、レポートを調べてエラーが発生した場所を確認できます。



カスタム コンフィギュレーション ファイルの使用

Cisco Email Reporting Plug-in では、インストールに含まれている一連の XML ファイルを編集することで、デフォルトの設定を変更できます。別の コンフィギュレーション ファイルを使用して、インストールの設定を変更することもできます。たとえば、`config_1.xml` コンフィギュレーション ファイルのレポート コンポーネントのセクションでは、報告用の最大メール サイズ、報告後にファイルのコピーを保持するかどうかなどのデフォルト オプションの一部を変更できます。ボタン名をカスタマイズしたり、さらに、ユーザ インターフェイスで使用されるテキストをローカライズすることもできます。

概要

カスタム コンフィギュレーション ファイルを変更して展開するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-In\Common` ディレクトリのコピーを作成します。



(注)

妥当性を保つために、元のファイルのディレクトリ構造を維持する必要があります。**Cisco Email Reporting Plug-in** ディレクトリから始まる構造が維持され、コンフィギュレーション ファイルと共にすべてのファイルが含まれていることを確認します。

- ステップ 2 XML コンフィギュレーション ファイルを編集します。新しいファイルを作成する代わりに、インストール ファイルに含まれている XML ファイルを変更することをお勧めします。これらのファイルの変更方法については、[XML コンフィギュレーション ファイルの編集 \(3-29 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 3 `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-In\Common\CommonComponentsConfig.xml` ファイルに移動します。

- ステップ 4 *CommonComponentsConfig.xml* ファイルに次のタグが含まれていることを確認します。

```
<accountFileNames>
  <accountFileName filePath="config_1.xml" emailAddress="*" />
</accountFileNames>
```



ヒント

accountFileName タグには *profileName* 属性を含めないでください。属性が含まれている場合は、削除してください。



(注)

特定ドメイン内の選択したユーザだけを設定するには、そのドメインを電子メールアドレスとして指定するように、*CommonComponentsConfig.xml* ファイルを変更する必要があります。

たとえば、シスコのユーザだけにコンフィギュレーション ファイルを適用するには、下記を変更します。

```
<accountFileName filePath="config_1.xml"
emailAddress="*" />
```

to:

```
<accountFileName filePath="config_1.xml" emailAddress="@cisco.com"
/>
```

accountFileName タグが複数ある場合、*filePath* は、*config_2.xml*、*config_3.xml* のようになります。

次に例を示します。

```
<accountFileName filePath="config_2.xml" emailAddress="@cisco.com"
/>
```

- ステップ 5 [インストールの前提条件\(3-1 ページ\)](#)の説明に従って一括インストールを実行し、[カスタム コンフィギュレーション ファイルの展開\(3-30 ページ\)](#)の説明に従って、カスタマイズした XML ファイルを展開します。



(注)

\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-In\Common ディレクトリのコンテンツを \\{SHARED_DIR}\{CONFIG_FOLDER}\Common にコピーする必要があります。UseCustomConfig コマンド パラメータを使用すると、変更したカスタム コンフィギュレーション ファイルをインストールで使用できます。

XML コンフィギュレーション ファイルの編集

Cisco Email Reporting Plug-in をインストールすると、構成データが作成されて XML ファイルに保存されます。文字列型の値を編集して、パラメータ値をカスタマイズすることができます。ただし、値を削除することや、ファイルの構造を変更することはお勧めしません。

デフォルトでは、プラグインによって、Outlook の次の場所にある `%AllUsersProfile%` ディレクトリにコンフィギュレーション ファイルがインストールされます。

```
%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug In
```

XML ファイルは次のデフォルトの場所にあります。

- **\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-In\{username}\config_1.xml、config_{N}.xml。**この番号はユーザーアカウントの数によって異なります。報告可能な最大メールサイズなど、レポート プラグインに関連する設定データが保存されます。Reporting の設定を変更することはお勧めしません。
- **\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-In\Common\CommonComponentsConfig.xml。**ログ ファイルの場所や、ローカリゼーション ファイルの名前(デフォルトのローカリゼーション ファイルは `en.xml`)など、レポート プラグインに共通する基本的な構成データが含まれています。電子メールプログラムの設定を使用してログ ファイルの場所を変更し、一括インストールプログラムによってそれを展開できます。使用可能なローカリゼーション ファイルとは異なる言語でローカリゼーション ファイルを作成する場合は、新しい XML ファイルの名前をここで指定する必要があります。
- **\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-In\Common\Localization\en.xml。**ローカル言語に関連するデータが含まれています。デフォルトの言語は英語です。ただし、`de.xml`、`es.xml`、`fr.xml`、`it.xml`、`zh.xml`、`pt.xml`、`ja.xml` など、いくつかのローカリゼーション ファイルが使用可能です。これらの xml ファイルの対象外の言語を使用する場合は、カスタム xml ファイルを作成し、そのファイルを `CommonConfig.xml` ファイルで指定できます。



注意

<や> 記号の内側にある文字列 ID はいずれも変更しないでください。変更すると、プラグインが適切に機能しなくなります。

例

次の例は、en.xml ファイルへの変更例を示しています。

レポート ツールバー内のテキストを変更するには、en.xml xml ファイルで次のセクションを探し、太字で表記されているテキストを編集します。

```
<group name="Mso.Report.Button.Cations">
  <string id="blockSender">Block Sender</string>
  <string id="spam">Spam</string>
  <string id="ham">Not Spam</string>
  <string id="virus">Virus</string>
  <string id="phish">Phish</string>
</group>
```

たとえば、よりわかりやすいタイトルを追加したい場合は、テキストを次のように変更できます。

```
<group name="Mso.Report.Button.Cations">
  <string id="blockSender">Block Sender using Outlook</string>
  <string id="spam">Report Spam</string>
  <string id="ham">Report Not Spam</string>
  <string id="virus">Report Virus</string>
  <string id="phish">Report Phishing Attacks</string>
</group>
```

カスタム コンフィギュレーション ファイルの展開

コンフィギュレーション ファイルの編集が完了したら、展開時に特殊キーを追加して、変更したカスタム コンフィギュレーション ファイルがインストーラで使用されるようにする必要があります。**UseCustomConfigs** コマンド ライン パラメータを使うと、インストールでカスタム コンフィギュレーション ファイルを使用できます。また、このパラメータによって、インストール時に使用するコンフィギュレーション ファイルが格納されているフォルダのパスを指定します。

一括インストールの [ステップ 12](#) で、次の構文を使用してコマンド ラインから **UseCustomConfigs** キーを追加します([インストールの前提条件 \(3-1 ページ\)](#)を参照)。

```
"Cisco Email Reporting Plugin.exe" /exenoui /qn
UseCustomConfig="\\{SHARED_DIR}\\{CONFIG_FOLDER}"
```

= の後ろのパスによって、カスタマイズしたコンフィギュレーション ファイルのパスを指定します。



CHAPTER 4

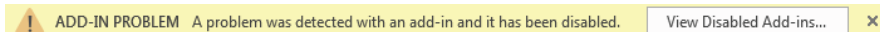
Cisco Email Reporting Plug-in の Outlook 用設定と使用

この章では、Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook で試用可能な機能について説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Email Reporting Plug-in の有効化 \(4-2 ページ\)](#)
- [使用状況データ収集の設定 \(4-2 ページ\)](#)
- [Outlook プラグインの基本設定 \(4-4 ページ\)](#)
- [更新をチェックするための Outlook Plug-in の設定 \(4-6 ページ\)](#)
- [不要な電子メールによるスパム、マーケティング、ウイルス、およびフィッシング攻撃の報告 \(4-9 ページ\)](#)
- [追加設定の変更 \(4-15 ページ\)](#)
- [エラーおよびトラブルシューティング \(4-18 ページ\)](#)
- [診断ツールを使用したトラブルシューティング \(4-21 ページ\)](#)
- [Cisco Email Reporting Plug-in のアンインストール \(4-24 ページ\)](#)

Cisco Email Reporting Plug-in の有効化

インストール後に初めて Cisco Email Reporting Plug-in を開始すると、Outlook によって無効になっていることがあります。無効になっている場合には、次のメッセージが表示されます。



Cisco Email Reporting Plug-in を有効にするには、通知バーの [無効なアドインの表示 (View Disabled Add-ins)] ボタンをクリックして [アドインを有効にする (Disabled Add-ins)] ダイアログを表示します。起動時にどれだけ時間がかかっても必ずアドインが実行されるように Outlook を設定するには、[常にこのアドインを有効にする (Always enable this add-in)] ボタンをクリックします。

使用状況データ収集の設定

Cisco Email Reporting Plug-in を最初に起動すると、製品の改善に役立てるために匿名データをシスコに送信できるようにするかどうかを尋ねられます。[匿名の使用状況データをシスコに送信する (Send anonymous usage data to Cisco)] チェックボックスをオンにすると、次の 2 つのタイプの情報が収集され、分析するために Cisco サーバに保存されます。

- プラグインを実行中のマシンに関する一般情報
- アカウント固有の情報

以下では、この情報の詳細について説明します。

起動後に [プラグインオプション (Plug-in Options)] > [追加オプション (Additional Options)] > [使用状況を送信する (Sending usage data)] タブを選択し、使用率データの送信を有効または無効にすることができます。

使用状況データのシスコへの送信を有効または無効にするには、CommonComponentsConfig.xml ファイルで次のパラメータを設定します：

- `callHomeAdminEnabled`: Outlook を起動したときに使用状況データの送信を有効にするには `true` を、送信を無効にするには `false` を設定します。デフォルト値は `true` です。`false` に設定すると、使用状況データ収集に関する通知を受信できず、シスコに匿名の使用状況データを送信することができなくなります。

全般情報

次の情報が収集されます。

- 識別子(UUID): プラグインが最初にインストールされたときに生成される一時的な識別子。使用データの継続的なトラッキングを可能にするため、使用レポートに専用で使用されます。[プラグインオプション(Plug-in Options)] > [追加オプション(Additional Options)] > [プライバシー(Privacy)] タブを選択すると、識別子をリセットすることができます。
- オペレーティング システムのバージョン
- Microsoft Outlook のバージョン
- Cisco Outlook Plug-in のバージョン
- オペレーティング システムで使用される言語
- インストールされているすべての Outlook プラグインの名前

アカウント固有の情報

非標準レポート アドレスが使用されているかどうかに関する情報を収集します。

Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook の全般設定

レポート プラグインの全般設定は、[オプション(Options)] ページから設定できます。

[有効(Enable)] または [無効(Disable)]

デフォルトでは、Cisco Email Reporting Plug-in はインストール時に有効になります。Cisco Email Reporting Plug-in は次の場所から無効にできます。

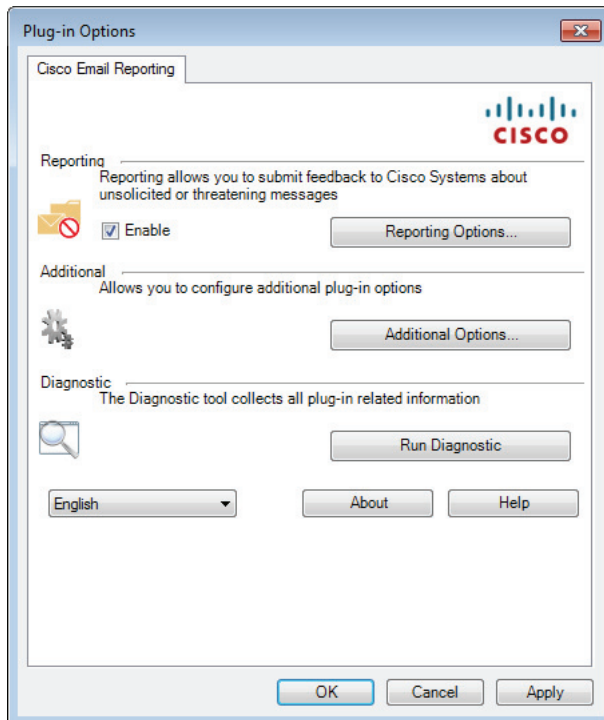
- Outlook 2010/2013/2016 では、[ファイル(File)] > [オプション(Options)] に移動し、左側のナビゲーション バーから [アドイン(Add-ins)] を選択します。次に、ページの下部にある [管理(Manage)] ドロップダウン メニューから [COM アドイン] を選択し、[続行...(Go...)] をクリックします。

Outlook プラグインの基本設定

エンド ユーザは [Cisco Email Reporting] タブで基本的な設定項目を設定できます。

- Outlook 2010/2013/2016 ではリボンの [プラグインオプション(Plug-in Options)] ボタンをクリックするか、[ファイル(File)] > [オプション(Options)] > [アドイン(Add-ins)] > [アドインオプション(Add-in Options)] > [Cisco Email Reporting] の順に選択します。

[Cisco Email Reporting] タブ：



エンド ユーザは、このタブで該当する [有効にする (Enable)] チェックボックスをオンにすることにより、レポートのオプションを有効にすることができます。[追加オプション (Additional Options)] ボタンを選択すると、その他のオプションも有効化できます。設定をさらに細かく行うには [レポートオプション (Reporting Options)] ボタンをクリックします。エンド ユーザは、問題解決時に診断ツールを使用し、Cisco Email Reporting Plug-in でレポートを実行してシスコのサポートに送信することもできます。Outlook を起動したときに、匿名の使用情報 (Plug-in の使用に関する一般情報) をサーバへ送信するように Plug-in を設定することもできます。

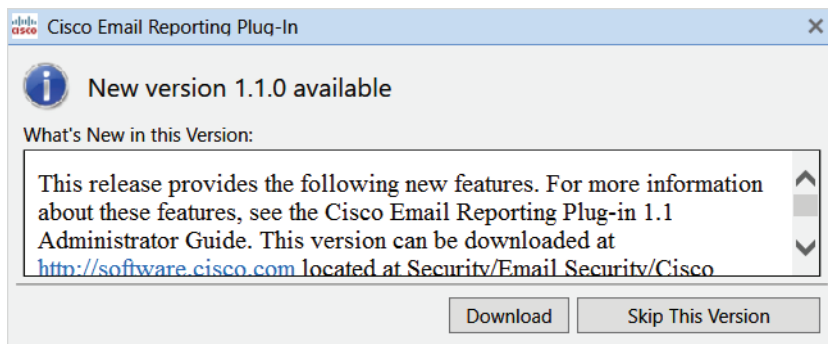
更新をチェックするための Outlook Plug-in の設定

更新を自動でチェックするようにプラグインを設定するには、CommonComponentsConfig.xml ファイルの checkForUpdates セクションで次のパラメータを設定します。

- **checkAutomatically:** Outlook を起動したときに更新の自動チェックを有効にするには true を、無効にするには false を設定します。デフォルト値は false です。
- **serverURL:** 新しいバージョンを利用できるかどうかをチェックするためにプラグインで使用する URL を設定します。
- **ignoredVersion:** 更新を探すときに、プラグインで無視するバージョン番号を設定します。

更新の通知

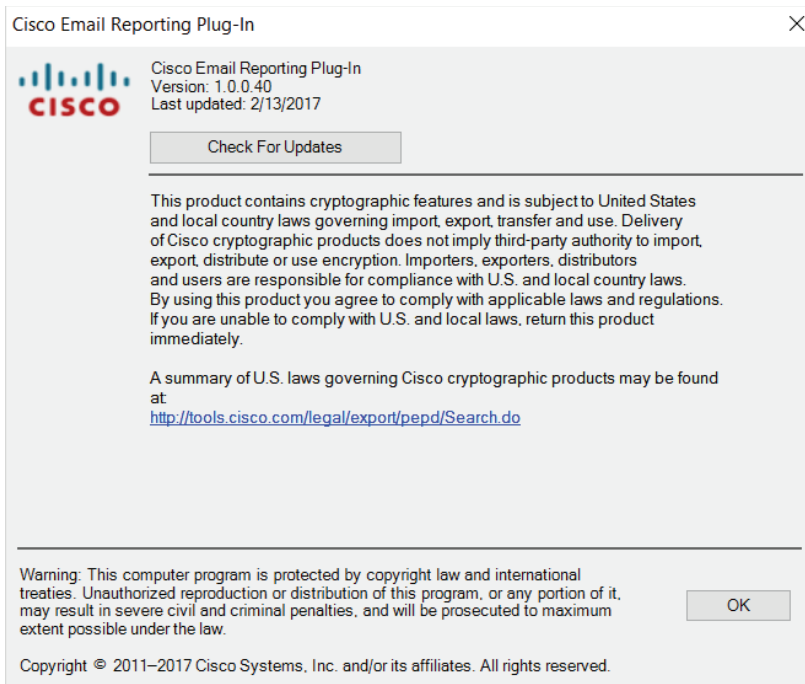
Cisco Email Reporting Plug-in で更新を自動的にチェックするように設定されており、Cisco Email Reporting Plug-in の現在のバージョンが最新ではない場合は、Outlook の起動時に次のダイアログボックスが表示されます。



(注)

Cisco Email Reporting Plug-in アプリケーションをダウンロードするための適切な権限が必要です。

Outlook の起動後に更新を確認するには、[Plug-in オプション (Plug-in Options)] ウィンドウの [製品情報 (About)] ボタンをクリックし、以下のダイアログ ボックスで [更新の確認 (Check for Updates)] ボタンをクリックします。



コンフィギュレーション ファイルを使用した 共通オプションの設定

すべての Outlook アカウントおよびプラグイン全体で共通のオプションは、CommonComponentsConfig.xml ファイルに含まれています。これらのオプションを次に示します。

- **diagnosticSupportAddress**: 診断ツールを実行したときに送信されるメッセージの受信者の電子メール アドレスを指定します。メッセージには、診断ツールの出力が含まれます。

- **diagnosticReportSubject**: 診断ツールを実行したときに送信されるメッセージの件名を指定します。
- **showPluginOptions**: レポート、診断、追加オプションを実行できる [Plug-in オプション (Plug-in Options)] ダイアログ ボックスを開く [Plug-in オプション (Plug-in Options) Plug-in Options] ボタンを有効にするには **true**、無効にするには **false** を設定します。**false** を設定すると、[Plug-in オプション (Plug-in Options)] ボタンは表示されません。
- **checkAutomatically**: Outlook を起動したときに更新の自動チェックを有効にするには **true** を、無効にするには **false** を設定します。デフォルト値は **true** です。詳細については、「[更新をチェックするための Outlook Plug-in の設定](#)」セクション(4-6 ページ)を参照してください。
- **serverURL**: 新しいバージョンを利用できるかどうかをチェックするためにプラグインで使用する URL を設定します。
- **callHomeAdminEnabled**: Outlook を起動したときに使用状況データの送信を有効にするには **true** を、送信を無効にするには **false** を設定します。デフォルト値は **true** です。**false** に設定すると、使用状況データ収集に関する通知を受信できず、シスコに匿名の使用状況データを送信することができなくなります。詳細については、「[使用状況データ収集の設定](#)」セクション(4-2 ページ)を参照してください。
- **callHomeEnabled**: Outlook を起動したときに使用状況データの送信を有効にするには **true** を、送信を無効にするには **false** を設定します。デフォルト値は **true** です。**false** に設定すると、ユーザは匿名の使用状況データをシスコに送信できません。詳細については、「[使用状況データ収集の設定](#)」セクション(4-2 ページ)を参照してください。

これらのオプションが **CommonComponentsConfig.xml** ファイルで設定されている場合、これらのオプションをユーザ環境で変更するには、**UseCustomConfig** オプションで多数のインストールを実行する必要があります。詳細については、「[カスタム コンフィギュレーション ファイルの使用](#)」セクション(3-27 ページ)を参照してください。

不要な電子メールによるスパム、マーケティング、ウイルス、およびフィッシング攻撃の報告

レポート プラグインを使用すると、エンド ユーザは、受信した電子メールがスパム、マーケティングのメール、フィッシング攻撃、またはウイルスであった場合にシスコに報告できます。また、誤ってスパムと分類されたメール(「ハム」とも呼ばれます)についても報告できます。

Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook は、Outlook の [オプション (Options)] ページを使用して設定できます。

- Outlook 2010/2013/2016 ではリボンの [プラグインオプション (Plug-in Options)] ボタンをクリックするか、[ファイル (File)] > [オプション (Options)] > [アドイン (Add-ins)] > [アドインオプション (Add-in Options)] > [Cisco Email Reporting] の順に選択します。[Cisco Email Reporting] タブで、[レポート (Reporting)] フィールドの [有効化 (Enable)] チェックボックスをオンにします。

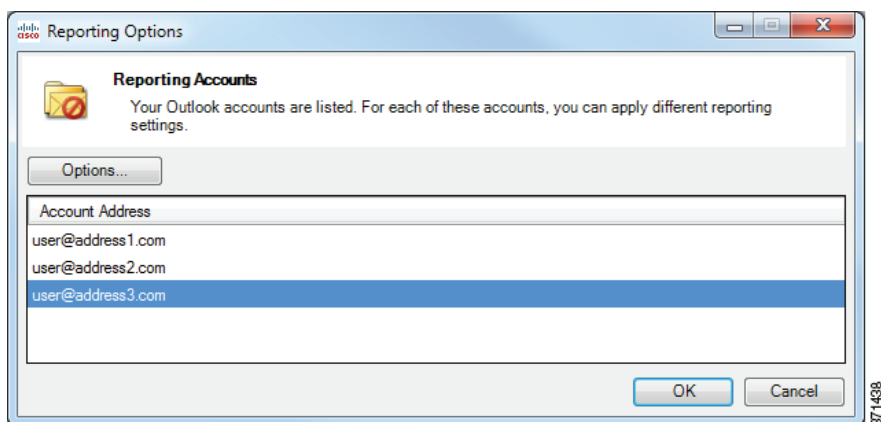
レポート オプション

レポートの設定は [Cisco Email Reporting] ページにあります。レポートの設定を変更するには、次の手順を実行します。

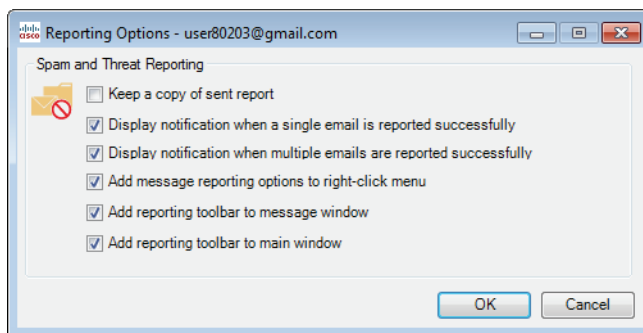
- Outlook 2010/2013/2016 では、リボンの [プラグインオプション (Plug-in Options)] ボタンをクリックするか、[ファイル (File)] > [オプション (Options)] > [アドイン (Add-ins)] > [アドインオプション (Add-in Options)] > [Cisco Email Reporting] の順に選択して、[レポート オプション (Reporting Options)] ボタンをクリックします。

また、アカウントの config_{N} ファイルに設定しなければならないレポート オプションもあります。詳細については、[「スパム レポートの暗号化の設定」セクション\(4-15 ページ\)](#)を参照してください。

次の [レポートアカウント (Reporting Accounts)] ページは、Outlook に設定されているすべてのアカウントを示しています。あるアカウントについてレポート オプションを設定するには、対象のアカウントを選択して [オプション (Options)] ボタンをクリックします。そのアカウントのレポート オプションが表示されます。



次のようなアカウント固有の [レポートオプション (Reporting Options)] ページには、選択したアカウントのレポート オプションが表示されます。ここで、それぞれの機能を有効または無効にすることができます。詳細については、次の表を参照してください。



この表は、エンド ユーザが設定可能なレポート オプションを示しています。

オプション	説明
[レポートしたメッセージを保存する (Keep a copy of sent report)]	デフォルトでは、スパムまたはウイルスの電子メール メッセージ、あるいは誤ってスパムまたはウイルスであると分類された電子メール メッセージについて、エンド ユーザがシスコに報告した場合、その送信された報告電子メールは削除されます。このオプションを選択すると、電子メールは削除されません。
Display notification when a single email is successfully reported	1 件の電子メールがスパムやウイルスとして正常に報告された場合に、成功を示すメッセージを Outlook のダイアログボックスに表示できます。このオプションをオフにすると、このダイアログボックスは表示されません。
Display notification when multiple emails are successfully reported	一連の電子メールがスパムやウイルスとして正常に報告された場合に、成功を示すメッセージを Outlook のダイアログボックスに表示できます。このオプションをオフにすると、このダイアログボックスは表示されません。
Add message reporting options to right-click menu	デフォルトでは、Cisco Email Reporting Plug-in をインストールすると、Outlook の右クリック コンテキスト メニューにレポート プラグインのメニュー項目が追加されます。このオプションをオフにすると、このメニュー項目は右クリック コンテキスト メニューに追加されません。

オプション	説明
[メッセージウィンドウにレポートのツールバーを追加する (Add reporting toolbar to the message window)]	デフォルトでは、エンド ユーザが Cisco Email Reporting Plug-in をインストールすると、電子メール メッセージ ウィンドウにプラグイン ツールバーが追加されます。このオプションをオフにすると、ツールバーは電子メール メッセージ ウィンドウに追加されません。
[メインウィンドウにレポートのツールバーを追加する (Add reporting toolbar to the main window)]	デフォルトでは、エンド ユーザが Cisco Email Reporting Plug-in をインストールすると、Outlook のメイン ウィンドウにプラグイン ツールバーが追加されます。このオプションをオフにすると、このツールバーは Outlook のメイン ウィンドウに追加されません。

Reporting Plug-in for Outlook の使用方法

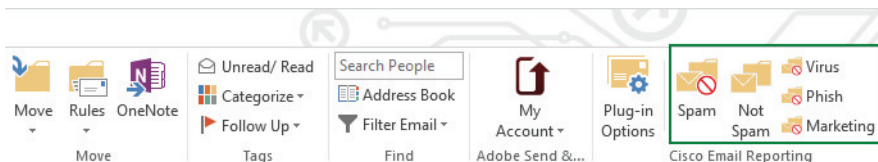
概要

Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook では、エンド ユーザは、受信トレイで受信したスパム、ウイルス、フィッシング、またはマーケティングのメールについてシスコにフィードバックを送信できます。たとえば、誤分類された場合やスパムとして扱うべき場合に、それらの電子メール メッセージについてシスコに報告できます。シスコでは、このフィードバックを活用して、不要なメッセージが受信ボックスに配信されないようにフィルタを更新します。

このプラグインをインストールすると、Outlook のメニュー バーと右クリック メッセージ メニューに便利なインターフェイスが追加されます。このインターフェイスを使用して、スパム、ウイルス、フィッシング、マーケティングの電子メールや、誤分類された電子メールを報告することができます。電子メールを報告すると、レポートが送信されたことを示すメッセージが表示されます。エンド ユーザが報告したメッセージは、シスコの電子メール フィルタの強化に使用されます。これによって、受信トレイに一方向的に送りつけられるメールの全体量が減少します。

シスコへのフィードバック

プラグインを使用すると、Outlook に次のボタンを持つツールバーが追加されます:[スパム (Spam)],[スパムではありません (Not Spam)],[ウイルス (Virus)],[フィッシング (Phish)],[マーケティング (Marketing)]。



これらのボタンを使用して、スパム、ウイルス、フィッシング、およびマーケティングのメールを報告します(フィッシング攻撃とは、「不正な」偽装 Web サイトにリンクしている電子メールを送りつける攻撃です。これらの Web サイトは、クレジットカード番号、口座の名義人名とパスフレーズ、社会保障番号など、個人の金融情報を受信者に漏洩させることを目的としています。たとえば、個人の銀行口座情報を不正に要求する電子メールが infos@paypals.com から送信されてくることがあります)。また、右クリックコンテキストメニューを使用して、スパム、誤分類されたメール、ウイルス、フィッシング、およびマーケティングを報告することもできます。

さらに、メッセージウィンドウのボタンを使用して、スパム、ウイルス、フィッシング、マーケティング、誤分類されたメールを報告できます(誤分類されたメールとは、誤ってスパム、ウイルス、フィッシング、またはマーケティングとしてマークされたメールです)。



スパム、ウイルス、フィッシング、またはマーケティングとして報告された電子メールのメッセージ処理の流れ

スパム、誤分類、ウイルス、フィッシング、またはマーケティングとして電子メールメッセージが報告された場合、そのメッセージは次のように処理されます。

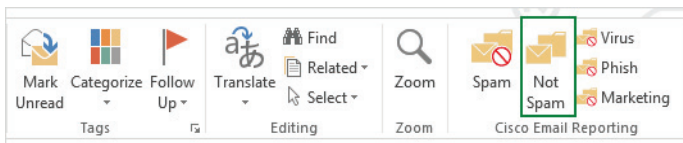
受信トレイのメッセージ:

- スпам、ウイルス、フィッシング、またはマーケティングとして報告された受信トレイのメッセージは、[ジャンクメール(Junk Email)] フォルダに移動されます。
- スпамではないと報告された受信トレイのメッセージは受信トレイフォルダに残ります。

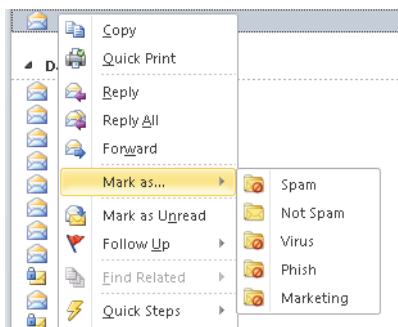
迷惑メッセージ:

- スпам、ウイルス、フィッシング、またはマーケティングとして報告された迷惑メッセージは、[ジャンクメール(Junk Email)] フォルダに残されます。
- スпамではないと報告された迷惑メールは受信トレイフォルダに移動します。

受信した電子メールがスパムと誤分類された場合(つまり、フィルタリングされ、[ジャンクメール(Junk Email)] フォルダに送られた場合)は、[スパムではありません(Not Spam)] ボタンをクリックして、電子メールが誤分類されたことを報告できます。これにより、この送信者からのメールは今後スパムとして分類されることはありません。



エンド ユーザは、右クリック コンテキスト メニューを使用して、誤分類されたメールにマークを付けることもできます。



スパム レポートの暗号化の設定

スパム レポートの暗号化を有効または無効にするには、アカウントの `config_{N}` ファイルの「reporting」セクションで次の 2 つのオプションを設定します。

- **format**: レポートのフォーマットを定義します。次の値をサポートしています。
 - **encrypted**: 送信前にレポートが暗号化されます。
 - **plain**: 暗号化せずにレポートを送信します。

デフォルトの値は **encrypted** です。

- **subject**: レポートの件名を定義します。「\${reportType}」という文字列を含めると、件名にレポート タイプ (スパム、ハム、ウイルス、フィッシング、マーケティング) を含めることができます。

スパム レポートのトラッキングの設定

スパム、ウイルス、フィッシング、またはマーケティングとマークされたメッセージをトラッキングするには、アカウントの `config_{N}` ファイルで次のパラメータを設定します。

- **copyAddressInPlainFormat**: スпам レポートのコピーがプレーン (.raw) 形式でカスタム電子メール アドレスに送信されるように指定します。

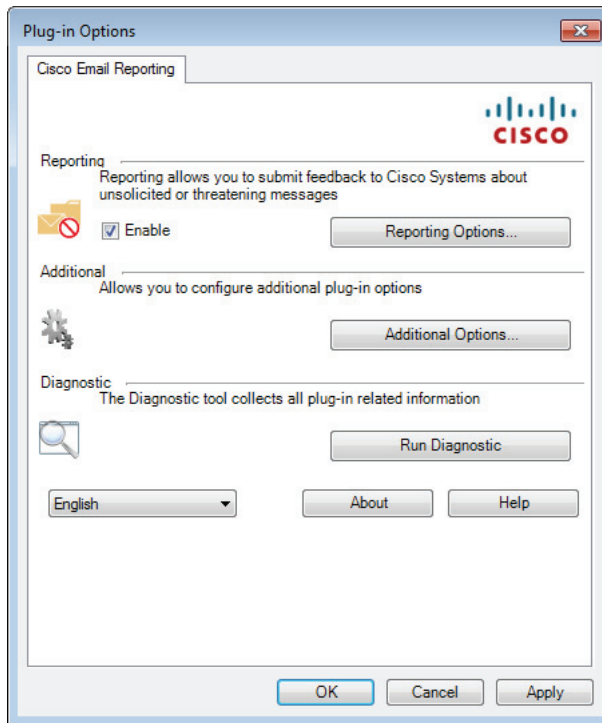
追加設定の変更

ログ ファイルは、発生したすべてのアクションをリストに記録します。

追加のオプションは [Cisco Email Reporting] ページにあります。追加のオプションを変更するには、次の手順を実行します。

- Outlook 2010/2013/2016 では、リボンの [プラグインオプション (Plug-in Options)] ボタンをクリックするか、[ファイル (File)] > [オプション (Options)] > [アドイン (Add-ins)] > [アドインオプション (Add-in Options)] > [Cisco Email Reporting] > [追加オプション (Additional Options)] の順に選択します。

[Cisco Email Reporting Plug-in オプション (Cisco Email Reporting Plug-in Option)] ページ:



[ロギング (Logging)] タブ

エンド ユーザは [ロギング (Logging)] タブで次のオプションを設定できます。

オプション	説明
[ロギングを有効にする (Enable Logging)]	Cisco Email Reporting Plug-in のロギングを有効にする場合に選択します。
[ログ ファイル名 (Log file name)]	ログ ファイルの名前を指定します。このファイルは %ALLUSERSPROFILE%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-in\<username> に保存されます。ログファイル名の最後には、.log 拡張子を付ける必要があります。
[ログ レベル (Log level)]	<p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">[標準 (Normal)]: このオプションはデフォルトで有効です。標準ログには致命的なエラー、回復可能なエラー、警告が含まれます。[拡張 (Extended)]: 標準のロギング メッセージに加えて、役立つ情報とデバッグ ロギング メッセージも有効になります。 <p>特定の状況に必要なトラブルシューティングのレベルに基づいてログ レベルを変更できます。たとえば、Cisco Email Reporting Plug-in で問題が発生した場合、ロギング レベルが [拡張 (Extended)] に設定されていると、開発者に対して可能な限りの情報を提供し、問題の再現と診断に役立ちます。</p>

[使用データの送信 (Sending Usage Data)] タブ

エンド ユーザは [使用データの送信 (Sending Usage Data)] タブで次のオプションを設定できます。

オプション	説明
匿名の使用状況データをシスコに送信する	<p>製品の改善に使用するデータを、Cisco Email Reporting Plug-in が収集できるようにします。次の2種類の情報が収集され、分析目的でシスコのサーバに保管されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プラグインを実行中のマシンに関する一般情報 • アカウント固有の情報

[プライバシー (Privacy)] タブ

エンド ユーザは [プライバシー (Privacy)] タブで次のオプションを設定できます。

オプション	説明
[識別子をリセットする (Resets Identifier)]	使用レポートに関連付けるために使用される識別子をリセットします。

エラーおよびトラブルシューティング

ここでは、Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook の使用中に発生し得る一般的なエラーと、それらを解決するためのトラブルシューティングを説明します。



(注)

同じエラー メッセージを複数回受け取り、そのエラーによって Cisco Email Reporting Plug-in が機能しなくなった場合、エンド ユーザは修復プロセスを実行できます。[Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook ファイルの修復 \(4-21 ページ\)](#)を参照してください。修復プロセスを実行しても同じエラーが発生する場合は、手順に従って診断ツールを使用し、シスコにフィードバックしてください。[Cisco Email Reporting 診断ツールの実行 \(4-22 ページ\)](#)を参照してください。

Outlook 起動エラー

コンフィギュレーション ファイルの初期化中に発生するエラー

Outlook の起動時に次のメッセージが表示されることがあります。

- *An error occurred during <file_name> configuration file initialization. 一部の設定がデフォルト値に設定されました。*
- *Config validation for account <account_address> has failed. 正しい値を設定するか、管理者にお問い合わせください。*

これらのエラー メッセージは、一部の設定値が無効な場合、または %ALLUSERSPROFILE%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-in\<username> フォルダ内の一部のコンフィギュレーション ファイルが破損している場合に表示されます。

ソリューション

Cisco Email Reporting Plug-in は、破損したコンフィギュレーション ファイルに含まれている一部のレポート オプションのデフォルト値を復元しません。代わりに、一部のレポート機能をオフにします。エラー メッセージが繰り返し表示される場合は、修復プロセスを実行してコンフィギュレーション ファイルを修正してください。[Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook ファイルの修復\(4-21 ページ\)](#)を参照してください。

コンフィギュレーション ファイルが見つからない

Outlook の起動時に次のエラー メッセージが表示されることがあります。

- *<file_name> configuration file was not found. 設定がデフォルト値に設定されました。*

ソリューション

Cisco Email Reporting Plug-in は、破損したコンフィギュレーション ファイルに含まれている一部のレポート オプションのデフォルト値を復元しません。代わりに、破損した値やタグにデフォルトの値を割り当てます。エラー メッセージが繰り返し表示される場合は、修復プロセスを実行してコンフィギュレーション ファイルを修正してください。[Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook ファイルの修復\(4-21 ページ\)](#)を参照してください。

メッセージ報告エラー

Outlook が 1 つ以上の名前を認識しない

エンド ユーザが Outlook で [スパム (Spam)]、[ウイルス (Virus)]、[フィッシング (Phish)]、[マーケティング (Marketing)] または [スパムではありません (Not Spam)] ボタンをクリックしたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

- 電子メールのレポート中にエラーが発生しました。説明:1 以上の名前が Outlookによって認識されません。

このエラーは、エンド ユーザがレポート プラグインを使用しており、電子メール メッセージの報告を試みているときに、Outlook がそのメッセージの形式を認識できない場合に発生します。エンド ユーザは、スパムやフィッシング メールを報告できるように(および、正当なメールを「非スパム」と報告できるように)、レポート プラグイン ファイルを修復する必要があります。

ソリューション

修復プロセスを実行します。[Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook ファイルの修復\(4-21 ページ\)](#)を参照してください。

サーバに接続できない

エンド ユーザが Outlook で [スパム (Spam)]、[ウイルス (Virus)]、[フィッシング (Phish)]、[マーケティング (Marketing)] または [スパムではありません (Not Spam)] プラグイン ボタンをクリックし、IMAP プロトコルまたは「headers only」Outlook プロパティを使用すると、次のメッセージが表示されることがあります。

- エラー:サーバに接続できません。この処理を実行するには、Outlook をオンライン状態または接続状態にする必要があります。

このエラーは、エンド ユーザが部分的に(ヘッダーのみ)ダウンロードしたメッセージの報告を試み、メール サーバへの接続が切断された場合に発生します。レポート プラグインは、部分的にダウンロードされたメッセージを報告できず、報告するメッセージ全体をダウンロードできるまで電子メールサーバへの接続を試みます。

ソリューション

ヘッダーのみの電子メールを報告する前に、Outlook が電子メールサーバに接続されていることを確認してください。

Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook ファイルの修復

Cisco Email Reporting Plug-in を修復するには、次の手順を実行します。

-
- | | |
|--------|---|
| ステップ 1 | Outlook が閉じていることを確認します。 |
| ステップ 2 | [コントロールパネル(Control Panel)] > [プログラムの追加と削除(Add or Remove Programs)] を選択します。 |
| ステップ 3 | プログラムの一覧で [Cisco Email Reporting Plug-in] を見つけて、[アンインストール/変更(Uninstall/Change)] をクリックします。 |
| ステップ 4 | [修復(Repair)] をクリックします。インストーラの修復プロセスが実行されます。 |
| ステップ 5 | エラーの原因になったアクションを実行します。修復プロセスの実行後も同じエラーが発生する場合、診断ツールを使用してシスコにフィードバックする手順を実行してください。 Cisco Email Reporting 診断ツールの実行(4-22 ページ) を参照してください。 |
-

診断ツールを使用したトラブルシューティング

Cisco Email Reporting Plug-in には、問題のトラブルシューティング時にシスコのサポートを支援する診断ツールが用意されます。診断ツールは、プラグイン ツールから重要なデータを収集した後、シスコ サポートに送信して問題の解決を支援します。

エラーが発生した場合や、修復手順では解決できない Cisco Email Reporting Plug-in に関する問題が発生した場合、エンド ユーザは診断ツールを使用できます。また、診断ツールを使用すると、不具合の報告時にシスコのエンジニアと重要情報を共有することもできます。

Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook ファイルの修復(4-21 ページ) または Cisco Email Reporting 診断ツールの実行(4-22 ページ)を参照してください。



(注)

エラーが発生した場合は、[エラーおよびトラブルシューティング \(4-18 ページ\)](#) のトラブルシューティングのヒントを参照してください。

Cisco Email Reporting 診断ツールにより収集されるデータ

診断ツールは、ご使用のコンピュータから次の情報を収集します。

- 一部の COM コンポーネントに関する登録情報
- 環境変数
- Cisco Email Reporting Plug-in 出力ファイル
- Windows および Outlook に関する情報
- システム ユーザ名および PC 名
- その他の Outlook プラグインに関する情報
- Outlook に関連した、Windows イベント ログのエントリ

Cisco Email Reporting 診断ツールの実行

Cisco Email Reporting 診断ツールは、次のいずれかの場所から実行できます。

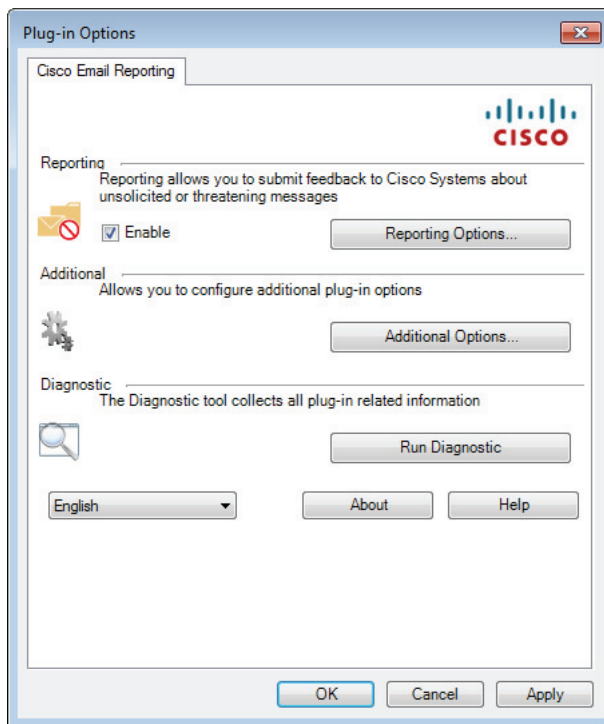
- **Cisco Email Reporting の [オプション (Options)] タブ**から。通常は、Cisco Email Reporting の [オプション (Options)] タブから診断ツールを実行します。
- 「**Program Files\Cisco Email Reporting Plug-in**」フォルダから (通常は C:\Program Files\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-in)。これは、Cisco Email Reporting Plug-in がインストールされているフォルダです。
- [スタート (Start)] メニュー > [すべてのプログラム (All Programs)] > [Cisco Email Reporting Plug-in] > [Cisco Email Reporting Plug-in 診断 (Cisco Email Reporting Plug-in Diagnostic)] から。

Outlook の [オプション (Options)] ページからの診断ツールの実行

ステップ 1 診断ツールを実行するには、次のように移動します。

- Outlook 2010/2013/2016 では、リボンの [プラグインオプション (Plug-in Options)] ボタンをクリックするか、[ファイル (File)] > [オプション (Options)] > [アドイン (Add-ins)] > [アドインオプション (Add-in Options)] > [Cisco Email Reporting] > [診断の実行 (Run Diagnostic)] の順に選択します。

[Cisco Email Reporting Plug-in オプション (Cisco Email Reporting Plug-in Options)] ページ:



ステップ 2 診断ツールがデータを収集するまで数秒間待ちます。診断ツールがデータを収集が終わったら、データが正常に収集されたことを示すメッセージが表示されます。

診断ツールにより、*CiscoReportingDiagnosticReport.zip* ファイルが生成され、現在のユーザの My Documents フォルダに保存されます。そのファイルはエンド ユーザがシステム管理者に送信するか、管理者がシスコサポートの担当者に送信できます。レポートを表示するには、*CiscoReportingDiagnosticsReport.zip* ファイルをダブルクリックします。

Program Files からの診断ツールの実行

次の 2 種類の方法で Program files から診断ツールを実行できます。

- [スタート (Start)] > [プログラム (Programs)] > [Cisco Email Reporting Plug-in] > [Cisco Email Reporting Plug-in 診断 (Cisco Email Reporting Plug-in Diagnostic)] から診断ツールを実行します。

または

- Cisco Email Reporting Plug-in がインストールされているフォルダ (通常は C:\Program Files\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-in) に移動し、*Cisco.EmailReporting.Framework.Diagnostic.exe* ファイルをダブルクリックします。

Cisco Email Reporting Plug-in のアンインストール

Cisco Email Reporting Plug-in をアンインストールするには、[コントロールパネル (Control Panel)] > [プログラムの追加と削除 (Add/Remove Program)] オプションを使用するか、*setup.exe* プログラムを実行します。

アンインストールすると、次の項目が削除されます。

- プラグインによって作成されたすべてのレジストリ エントリ
- [プログラムの追加と削除 (Add/Remove Program)] に一覧表示されているプラグインのエントリ
- プラグインに関連するファイルの一部。すべてのファイルが削除されるわけではないので注意してください。
- プラグイン ツールバー (Outlook から削除)



(注)

プラグインをアンインストールしても Outlook のパフォーマンスには影響しません。アンインストールするときは Outlook を終了しておいてください。

Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook をアンインストールするには、次の操作を実行します。

Cisco Email Reporting Plug-in for Outlook をアンインストールするには、次の 2 つの方法があります。

ステップ 1 [スタート (Start)] > [コントロールパネル (Control Panel)] > [プログラムの追加と削除 (Add/Remove Program)] をクリックします。

ステップ 2 [Cisco Email Reporting Plug-in] を選択し、[アンインストール/変更 (Uninstall/Change)] > [次へ (Next)] > [削除 (Remove)] の順にクリックします。

もう 1 つのアンインストール方法:

- プラグインのセットアップファイル(プラグインのインストールに使用したファイル)をダブルクリックし、[削除 (Remove)] オプションを選択して Cisco Email Reporting Plug-in をアンインストールします。



A P P E N D I X

A

シスコ エンド ユーザ ライセンス 契約

Cisco エンド ユーザ ライセンス契約の詳細については、
http://www.cisco.com/web/products/software_licensing_center.html を参照し
てください。

